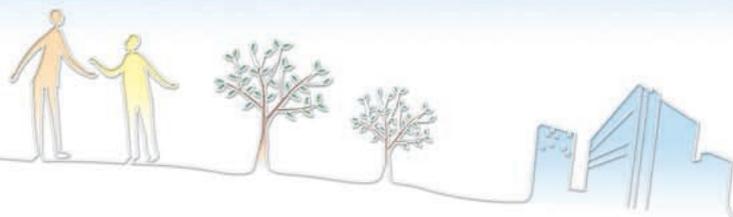


GUNZE

CSR報告書

— 2007 —





[会社概要]

創 業 明治29年(1896年)8月10日
 代 表 者 取締役社長 平田 弘
 資 本 金 26,071百万円
 従 業 員 数 2,339名(単体)
 8,413名(連結合計)

上場証券取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所

事 業 所 **本 店**
 〒623-8511
 京都府綾部市青野町膳所1番地
 TEL(0773)42-3181 FAX(0773)42-3193

大阪本社
 〒530-0001
 大阪市北区梅田1丁目8番17号大阪第一生命ビル
 TEL(06)6348-1313 FAX(06)6348-4815

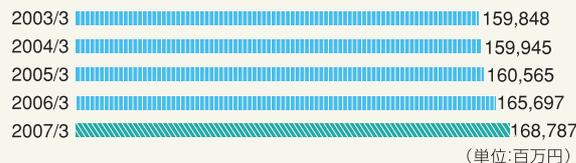
東京支社
 〒103-0027
 東京都中央区日本橋2丁目10番4号
 グンゼ日本橋ビル
 TEL(03)3276-8710 FAX(03)3276-8729

関係会社 (連結対象会社)

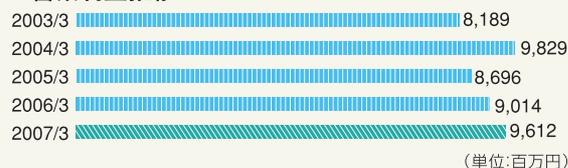
- **アパレル事業**
 東北グンゼ(株)、出雲アパレル(有)
 福知山アパレル(有)、公冠グンゼ(株)
 Gunze (Vietnam) Co.,Ltd.、Thai Gunze Co.,Ltd.
 済南冠世時装有限公司
 倉吉グンゼ(株)、大連坤姿時装有限公司
 九州グンゼ(株)、兵庫グンゼ(株)
 P.T.Gunze Socks Indonesia
 加賀グンゼ(株)、津山グンゼ(株)、中央繊維資材(株)
 P.T.Gunze Indonesia、上海郡是通虹纖維有限公司
 (株)ルフラン、グンゼ物流(株)
- **機能ソリューション事業**
 福島プラスチック(株)
 Gunze Plastics & Engineering Corporation of Europe N.V.
 Gunze Plastics & Engineering Corporation of America
 グンゼ包装システム(株)、上海郡是新包装有限公司
 郡是高分子工業(株)、上海郡是高分子材料有限公司
 上海郡是新塑材有限公司
 エルマ(株)
 Gunze Electronics U.S.A. Corp.
 GGI Technology Limited.
 綾部エンブラ(株)
- **ライフクリエイト事業**
 グンゼ開発(株)、(株)つかしんタウンクリエイト
 グンゼグリーン(株)、グンゼスポーツ(株)
 (株)グンゼオフィスサービス

連結業績

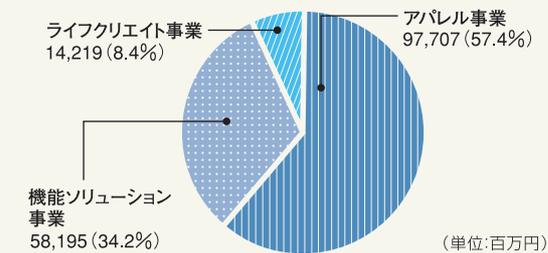
■売上高推移



■営業利益推移



■事業セグメント別売上高



()は構成比を表す。
 上記セグメント別売上高は、セグメント間で発生した売上高を調整する前の数値です。

■アパレル事業(消費財)

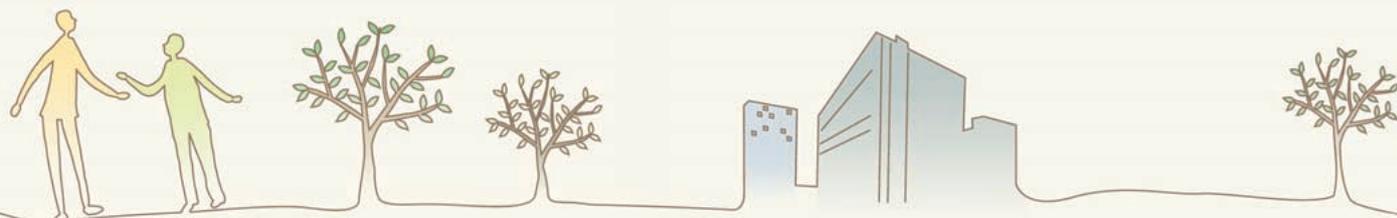
- メンズインナー、キッズインナー ●レディスインナー ●ストッキング、ソックス
- ハウスカジュアル(ホームウェア、ナイトウェア)
- 繊維資材(工業用ミシン糸、産業資材)
- その他(婦人服、ベビーウェア、テキスタイル、絹織物)

■機能ソリューション事業(生産財)

- プラスチックフィルム(ペットボトル用熱収縮ラベルなど)
- エンジニアリングプラスチック(複写機・プリンター等の部材)
- 電子部品(タッチパネルなど)
- 医療材料(吸収性縫合糸、人工真皮、吸収性骨接合材など)
- メカトロ(印刷周辺省力機器など)

■ライフクリエイト事業(サービス等)

- フィットネスクラブの運営
- グリーン事業(樹木・花卉販売、屋上緑化など)
- 温浴(つかしん天然温泉「湯の華廊」) ●エステイト(不動産の賃貸など)
- エンジニアリング(省エネ事業など) ●デベロッパ(商業施設の運営)



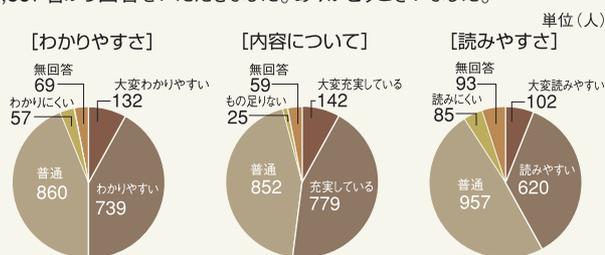


C O N T E N T S

編集にあたって

- 本報告書はグンゼグループのCSR活動の取り組み内容を開示し、ステークホルダーのみならずご意見をいただき、より一層の取り組み向上につなげることを目的に発行しています。
- 実績データは2006年度(2006年4月1日～2007年3月31日)分を記載していますが、活動内容については一部上記期間以前もしくは以後直近のものを含んでいます。
- 対象範囲はグンゼ株式会社と国内外の関係会社(連結・非連結含む58社)を対象にしています。
- 作成にあたってはGRI(Global Reporting Initiative)の「持続可能性報告のガイドライン」を参考にしています。
- 2006年度にいただいたアンケートをもとに、幅広い読者のみなさまにCSRの取り組みをご理解いただけるよう心がけました。

報告書アンケート調査まとめより:
1,857名から回答をいただきました。ありがとうございました。



創業110年を振り返って	508
社会貢献活動	378
消費者への責任	327
地球・社会と企業の共存共栄を目指した商品・サービスの提供	321
トップインタビュー	309
従業員とともに	309
企業理念とCSR経営	245
第三者意見	243
環境負荷低減への取り組み	231
環境方針と環境マネジメントシステム	203
ステークホルダー満足度の向上を目指して	158
2005年度の主な取り組み	155
事業活動にともなう環境影響と環境会計	110

- 本報告書はグンゼホームページでもご覧いただけます。
(2007年7月掲載予定)
URL <http://www.gunze.co.jp/>

会社概要	01
編集にあたって	02
トップメッセージ	03

■ハイライト

ステークホルダーミーティング	05
----------------	----

■CSRの取り組み

グンゼの「是」とCSR経営	07
ステークホルダーからの信頼構築	09
ステークホルダーとの共存共栄	11

■社会性報告

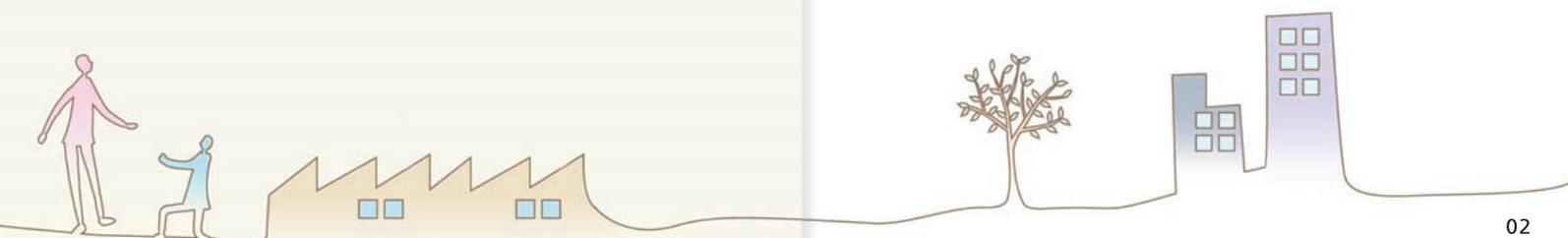
消費者への責任	13
構成員に対する責任	15
社会貢献活動	17

■環境報告

環境方針と環境マネジメントシステム	19
事業活動にともなう環境影響と環境会計	21
環境負荷低減への取り組み	23

地球・社会と企業の共存共栄を目指した商品・サービスの提供	27
------------------------------	----

第三者意見	29
-------	----





取締役社長

平田 弘

グンゼグループは
「不進不存」を合言葉に、
社会との共存共栄、
持続的発展を目指します。

1 「不進不存」と事業活動

グンゼは本年創業111年となりますが、この間、事業内容は大きく変化しています。

創業者 波多野鶴吉が「国には国是...郡には郡はあるべし」という元農商務省次官 前田正名氏の所信に共鳴し、地域社会への貢献という理想に燃えて京都府何鹿郡（現在の綾部市）に興した祖業である生糸事業は1991年に幕を閉じ、代わりに事業の柱となったのが肌着・靴下に代表されるアパレル事業です。

そして今、新たな主力事業として、またこれからの成長分野として期待しているプラスチックフィルム・エンジニアリングプラスチック・電子部品・メカトロ・メディカル材料等の機能ソリューション事業があり、「つかしん」ショッピングセンターやスポーツクラブ等のサービスを提供するライフクリエイト事業があります。

グンゼグループはアパレル・機能ソリューション・ライフクリエイトの3つの事業で「安心・安全・快適・新機能の創造」によるお客様満足を提供することを目標に、事業活動を通じた社会貢献を目指しています。

社会構造が大きく変化し、グローバルな企業間競争が激化し、消費者の価値観が多様化する中、当社が「社会から必要とされる企業であり続ける」ためには、自らが環境変化に敏感に対応し、進歩・進化する企業でなければならないと考えています。

わたしはグンゼグループ2007年の指針を「不進不存」としました。これはダーウィンが唱えた「最も強いものでもなく、最も賢いものでもなく、変化に最も敏感に対応できたものが生き残れた」という進化論が生物の世界だけではなく、企業にも適合すると考えたからです。

企業にとって現状維持は退歩であり、社会やお客様の変化に迅速に対応できる会社、変化する時代の要請に誠実・的確に対応できる会社を目指してステークホルダーのみならずとも歩んでいくことが、社会と共生し、持続的発展のために必要不可欠であると考えています。

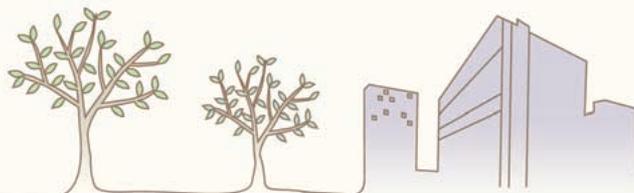
2 ステークホルダーからの期待に応える事業活動

企業を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。

これまで「優良企業」であった企業が、突然社会の信頼を失い、経営危機に陥る事象が相次いでいますが、これは社会の変化に気づかず、あるいは軽視して、「企業の常識」が「社会の非常識」になったことが一因ではないかと思えます。

企業の一方的な価値観や論理が通用しない時代であることをわたしたちは強く認識しなければなりません。

グンゼグループが社会から必要とされ続けるためには、ステークホルダーからの要請や課題をどのようにして「事業活動を通



じて解決していくことができるか」にかかっていると思います。

「企業に対する期待を敏感にとらえ、事業活動に戦略的に反映させ、実行すること。」これこそが社会からの要請に応える企業力=広義のコンプライアンスであり、CSRの基本であると考えます。

そのために重要なことは、可能な限りステークホルダーのみなさまと対話することではないかと思ひます。

様々な立場のご意見・価値観・期待・不満などの情報を真摯に受け止めるとともに、わたしたちが企業活動を通じて貢献できることを一所懸命に考え、努力し、提案し、誠実に実践することが不可欠だと考えるからです。

わたしたちは2005年のサーモコントロール加工商品の重大クレームを厳しく反省し、品質第一の原点に立ち返り、消費者や取引先のみなさまに信頼されるものづくりに徹する品質保証体制の強化に積極的に取り組んでまいりましたが、残念ながら2006年度も消費者や取引先のみなさまにご迷惑をおかけするクレームが発生しています。

グンゼグループに対する期待の第一は「安心・安全・快適・新機能」の提供にあることを再確認し、社系にある「優良品の提供に徹し社会に貢献する」を実践してまいります。

3 コーポレートガバナンスの強化について

価値観が多様化し、複雑化した社会において企業が社会的責任を果たすためには、ガバナンス体制の整備・強化がますます重要になっています。

まず、取締役会の改革については、2002年にチーフオフィサー制度や経営執行会議の導入、2005年には執行役員制度を導入するなど、経営と執行の分離を進めるなかで、両機能の強化を図ってまいりました。

2006年から社外取締役2名を招聘し、経営に対してグローバルな視点や豊富な経験に基づくアドバイスやチェックを受けることにより、一層のガバナンス体制の強化を図っています。

この社外取締役の招聘では、創業以来初めて女性取締役が誕生しましたが、この変化は構成員に与える影響も大きかったのではないかと思います。

残念ながらこれまでは、女性の管理職が少なく、課題の一つであると感じていました。消費財を提供するメーカーとしても、もっと女性の視点や感性、そしてパワーを事業活動に活かしていきたいと思ひます。

男性も女性も、いきいきと自分の能力を発揮できる場とお互いの信頼感、そして仕事に対する誇りがあってこそ、真のCSR経営による社会貢献が実践できると考えています。

グンゼグループでは2006年5月の取締役会で決議し

た「内部統制システム整備に関する基本方針」に基づき、「リスク管理規程」「コンプライアンス規程」「CSR規程」等、規程類の整備を行うとともに「財務報告に係る内部統制の文書化方針」を決定し、内部統制システムの整備・強化に取り組んでいます。

また、2006年6月に、コーポレートガバナンスに関する基本方針^{*1}を決定し、透明性の高い経営の実現を目指しています。

さらに2006年8月に「サプライヤー行動規範^{*2}」を定め、取引先のみなさまとともにCSR経営を実現することで、持続可能な社会の実現に向けて企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。

4 創業の精神と「不進不存」の実践

わたしたちが決して変えてはならないものは111年前から今日まで受け継いでいる「創業の精神」です。

すなわち「人間尊重」「優良品の提供」「共存共栄」をグンゼグループのDNAとしてしっかり継承し、「品質第一」「技術立社」を基盤として「安心・安全・快適・新機能の創造」によって、お客様満足を実現し、企業の社会的責任を果たし、社会に貢献したいと思ひます。

それを実現するためには、ステークホルダーとの対話を含む情報収集を積極的に行い、その声を事業活動へ迅速に反映すること、すなわち「不進不存」の信念を持って「夢を成果へ 驚きを創造へ 感動を未来へ」を実現することでその期待に応えること。そして内部統制システムを含むコーポレートガバナンスの強化でステークホルダーからの信頼に応えることが重要であると思ひます。

これらのことにグンゼグループの全構成員が心を一つにし、力を合わせ、少しでも進歩・進化させてまいります。

これがグンゼの目指すCSR経営であり、構成員が一丸となって実践するためのCSR基本方針^{*3}を定めています。

形だけのCSR推進では「不進不存」は実現できません。

これをいかに実践してきたか、そして何ができていないのかについて、具体的な取り組み事例や結果数値をこのグンゼCSR報告書2007に記載しています。

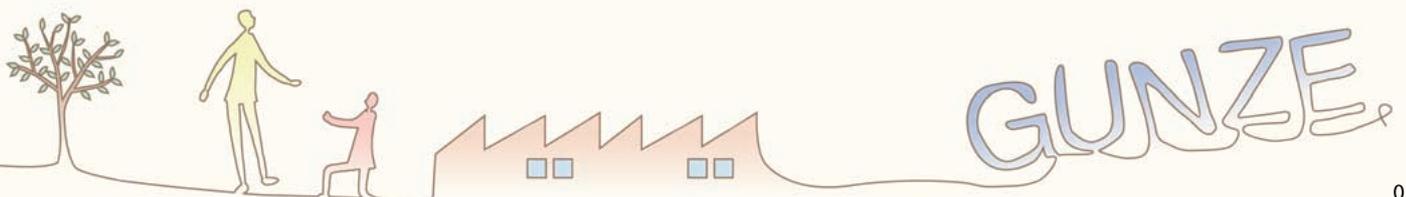
是非ご一読いただき、みなさまからの忌憚のないご意見をいただくことで、わたしたちの取り組みをさらに進化させてまいりたいと存じます。



※1 コーポレートガバナンスに関する基本方針 ▶P08参照
<http://www.gunze.co.jp/ir/governance/governance.html/>
東京証券取引所へ開示

※2 サプライヤー行動規範
▶P11参照

※3 CSR基本方針
▶P07参照



ステークホルダーミーティング

立教大学大学院「21世紀社会デザイン研究科」の「CSRインターンシップ・プログラム」のメンバーの方々が、当社創業の地、綾部と、アパレル基幹工場の宮津工場を調査され、大阪本社において小谷会長と、当社のCSR推進について意見交換を行いました。



ステークホルダーミーティング参加者

グンゼ株式会社 会長
小谷 茂雄

[立教大学大学院「21世紀社会デザイン研究科」のみなさま]



教授 中村 陽一氏



教授 福田 秀人氏



CSRインターンシップ・プログラム
リサーチ・フェロー講師
服部 篤子氏



CSRインターンシップ・プログラム
コーディネーター
中原 美香氏



立教大学大学院「21世紀社会デザイン研究科」とは…

ネットワーク・非営利組織・危機管理をコアに、2002年に設立され、そこで学ばれた方々が、企業、NPO、自治体などで、専門知識を活かして活躍されています。また、2005年に、文部科学省の派遣型高度人材育成協同プランとして「CSRインターンシップ・プログラム」を提案、受託し、CSRの研究と人材育成を推進されています。



CSRを専門に研究されている方々からも グンゼのCSRの考え方について賛同を得ました。

「変わらないわたしたちの創業の精神が
グンゼCSRの基盤になっています。」

[福田教授] CSRIは今ではブームのようになっていますが、わたしたちは、欧米ではなく、日本でCSRに熱心に取り組んでこられた企業を発掘し、世界に発信していきたいと考えています。グンゼ創業の地である綾部の記念館や博物館、そして宮津工場にお伺いすることで、グンゼ創業の精神がCSRの追求そのものであることを体感し、感動いたしました。

[小谷会長] 創業当時と現在とは全く環境が異なります。創業当時と同じやりかたを続けていたのでは110年の歴史はなかったでしょう。世の中の変化やわたしたちに期待されることにどう応え続けられるかが企業存続には不可欠ですが、一方で、「人間尊重」「優良品の提供」「共存共栄」といった創業の精神は変えてはならないものとして今でも引き継いでおります。

「会社は誰のものか」と言えば、通常は「株主のもの」といわれるのですが、創業者である波多野鶴吉は従業員の自宅一軒一軒をまわり、一株の株主になっていただけるよう、お願いしてまわりました。一株といっても当時は相当な金額であり、波多野は苦心したようですが、従業員は一所懸命働く、家族に恩返しができます。そこにやりがい生まれ、会社と従業員が丸となって働くことができたのではないかと思います。



〈グンゼ博物館〉

創立100周年を記念して建設した産業技術史的な資料館。歴史的な建物・機械・資料を展示。



〈グンゼ記念館〉

戦前の本社事務所。創業以来のグンゼの経営姿勢や歩みを中心に、歴史的資料を展示。



製糸場の様子

グンゼは世の中によいものを提供することにより社会に貢献する会社であることは創業以来変わっておりません。消費者の目は今後ますます厳しくなってくるでしょうが、みなさまに信頼され続ける会社であるために、「安心・安全・快適」な優良品の提供に徹することに加え、「新機能の創造」で「豊かさ」を提供するため日々努力を続けます。世界で日本の消費者が一番厳しい目をもっており、日本の消費者に受け入れられることは海外においても「安心・安全・快適・新機能の創造」を感じていただけるものと考えています。

必死で取り組んだのは現地の構成員に、わたしたちの「ものづくりの考え方」を伝えること。

[福田教授] 小谷会長は1979年に中国山東省済南市で、繊維業界のパイオニアとして、挑戦してこられたとお聞きしましたが、そのときの思いなどをお聞かせください。

[小谷会長] わたしは「安い労働力で安く作るために中国へ」という発想ではなく、むしろ「技術指導」の気持ちで現地へ向かいました。まず、必死で取り組んだのは現地の構成員に、わたしたちの「ものづくりの考え方」を伝えることでした。

労務費が安いから利益を追求できるという考え方では、モラルが後回しになります。「善い人が良いものをつくる」という創業者の教えは海外でも実践され、息づいているのです。

[福田教授] 確かに、宮津工場にお伺いしたとき、以前タイの工場勤務されていたという村山工場長が同じことをお話しされていました。

[中村教授] そうですね。わたしも創業の精神が引き継がれ、これまで実践してこられていると感じました。



グンゼ記念館を見学

創業の精神を礎に、「新しいグンゼ」への改革に挑戦します。

[小谷会長] 一方で、わたしたちは新しいグンゼを目指し「変える勇氣、変わる力」をもとに、時代の変化に対応するため、さまざまな変革を行っているのですが、消費者にちゃんと伝わっているのかは反省すべきところだと思っています。「安心・安全・快適」は決して変えませんが、「グンゼは古い」というイメージを、「新しい、楽しい」に変えられるよう、取り組むことが必要です。

[服部講師] 以前、わたしが学生のとき、肌着売り場でアルバイトをしていたのですが、「グンゼの肌着コーナーはどこですか」とよくご高齢の方に聞かれました。ご高齢の方には根強いグンゼファンがいて、「良い肌着はグンゼ」が定着していることを感じました。

今取り組まれている楽しい売り場づくりという発想は、もっと多くのファンを作るのに大事な取り組みだと思えます。

[中村教授] 新しいことに取り組むと、タテ糸が乱れてくる企業が多いようですが、グンゼのどの方にお会いしても、タテ糸がしっかり根付いていると感じました。

[小谷会長] 実は「創業のDNA継承」だけでは事業は続きません。しっかりした経糸たていとに対してどんな緯糸よこいとを導入するかが大事です。*

時代にあったものづくりが今、わたしたちに最も求められているところです。

グンゼは繊維会社というイメージがあると思いますが、今、機能資材グループが伸びてきています。「繊維の会社でなぜ」と不思議に思われるかもしれません。もともとは「肌着を包んでいるフィルムを自社で生産できないか」と始めたことがプラスチック事業の始まりでした。このような考え方が時代を経て、コピー機の転写ベルトや、タッチパネルの生産につながってきています。

社会の要請に応えることがわたしの考えるCSR。グンゼの取り組みはまさにこれであると感じます。

[福田教授] これまでいろんな危機的状況があったと思いますが、グンゼのCSRIには芯が通っており、「楽してもらう」よりも、常に消費者の目線で、対等であることで乗り越えられてきたことを感じます。

[小谷会長] そうですね。対等な目線というのは大事な視点であると思います。

天安門事件(1989年)が起きたときは、済南で勤務していた駐在員を即刻帰国させるかどうか、検討しましたが、日頃の現地の方との信頼関係のおかげで、結局、帰国しなくても危険を感じることなく過ごせたことは、本当にありがたいことと思います。

[中村教授] CSRIは企業の社会的責任と言われていますが、わたしは応答可能性だと考えています。きちんと反応できる力がレスポンスビリティではないでしょうか。「責任」というから誤解があるようで、社会からの要請に応えていくこと。コンプライアンスも法律を守ることだけにとどまらない、応答する力と考えるべきだと思っていますが、グンゼの取り組みはまさにこれであると感じています。

[小谷会長] CSRの範囲は広く、創業時とは全く異なる時代の変化に対応することが求められています。

環境も、人権も守りながら利益を生み出し、それを還元し続ける。目標ははっきりしていますが、取り組みとなるとまだまだで、いろんな外部の方々との対話やご指摘で気づかされる点が多くあります。これからもお気づきの点がありましたら、ご意見をよろしくお願いたします。



今後もさまざまなステークホルダーのみなさまと継続して意見交換を図り、その期待に応えられるよう、より一層、取り組んでまいります。

「創業の精神」はグンゼにとって変えてはならない経糸です。

※経糸と緯糸について

織物は、経糸と緯糸で構成される。経糸は織物の端から端まで縦につながり、いつまでも変わらない糸である。緯糸は経糸に絡まって織物の柄を形成する。

経糸には節など一切ない優良糸が、緯糸には普通糸が使われる。日本の大半の製糸家は大量生産に重点をおいていたが、創業者の波多野鶴吉はあくまでも経糸として選ばれる「精良優美な優良品の生産」を貫いた。

グンゼは創業の精神を経糸に、 ステークホルダーからの期待に 誠意をもって応えます。

グンゼは1896年（明治29年）、創業者・波多野鶴吉が京都府
何鹿郡の地場産業であった蚕糸業の振興を会社設立の趣旨とし
て、地域社会との共存共栄を目指し、社名を「郡の方針」を意味する
郡是と定め、郡是製絲株式会社を興したことに始まります。

創業の精神を経糸に、わたしたちに対する社会からの期待に「誠意」
をもって柔軟に応えることを緯糸に、地球・社会と企業の持続的発展
への取り組みを重ね、今年111年目を迎えました。

経糸

変えてはならないもの

- 創業の精神
- 三つの章句、三つの躰
- 社是
- グンゼ行動規範

緯糸

社会からの期待に応え、
積極的に改革、改善するもの

- 経営方針・戦略
- 事業計画
- 生産システム
- 商品・サービスなど

[創業の精神]

人間尊重と優良品の生産を基礎として会社をめぐるすべての関係者との共存共栄を図る

[三つの章句]

誠意

一所懸命、これが誠意である。
小事をおろそかにしない。表裏がない。
遅延がない。間断がない。約束を違えない。
責任感も勇気もこれより出で、
知恵もここから生まれる。
成功の基礎である。

愛情

思いやりの心である。
相手の身になって考える。
非礼を行わない。よく忍待する。
知恵はここから出で、
人を生かし、事を生かし、物を生かす。

謙虚

己を空しうして他から学ぼうとする精神
である。
進歩の母体である。
競争は、きのうの我とする。

[三つの躰]^{※1}



[社是]

1. 優良品の提供に徹し社会に貢献する

1. 誠意をつくし信頼の輪をひろげる

1. 若さと創意をいかし世界の一流をめざす

[グンゼ行動規範]

第1章 グンゼは、企業活動を通じて社会貢献に努め、企業市民としての責任を果たします。

第2章 グンゼは、世界に通じる公正なルールにのっとり活動します。

第3章 私たちは、なにごとにも積極果敢に挑戦するとともに、良識をもって行動します。

■ CSR基本方針

企業理念、社是、グンゼ行動規範を経糸に、取り巻くすべての利害関係者からの要請・期待に敏感に、柔軟に、誠意をもって応え、公正で誠実な企業活動を推進し、地球・社会と企業の持続的発展を目指し、社会的責任を果たす。

消費者のために

常に消費者の立場に立って考え、優良な商品・サービスの提供に徹し、“売って喜び買って喜ぶ”を実践する。品質を第一義に、安全、安心、快適、満足を追求し、環境と人にやさしい製品、サービスの開発、提供で持続可能な社会の実現のために努力する。

株主・投資家のために

CSR推進を通じ企業の信頼を高める。
企業情報を積極的かつ公正に開示し、その信頼に
応える。

構成員のために

人間尊重を基盤とし、適材適所、多様性を発揮できる能力開発の推進により社会に貢献できる人財を育成する。また、従業員が自らの意思により労働組合を結成する結社の自由および集団で交渉する権利を法律で禁止されていない限り尊重する。

地域社会のために

積極的に社会、地域活動に参加し、社会との友好な関係を築き、地球・社会との持続可能性を目指す。また、児童労働、強制労働、過酷な懲罰等の非人道的な労働行為および人種、国籍、性別等による差別を行わない。

取引先のために

共存共栄の実現を目指す。
独占禁止法、下請法をはじめとする関連法令およびその精神を順守し、公正かつ自由な取引を行う。公正さを疑われるような贈答や接待をしたり、受けたりしない。

地球環境のために

事業活動の全過程において地球環境保護、CO₂削減に積極的に取り組む。
事業活動を通じた環境配慮型製品・サービスの提供を通じて、環境にやさしい社会の実現に貢献する。

CSR推進体制と重点活動

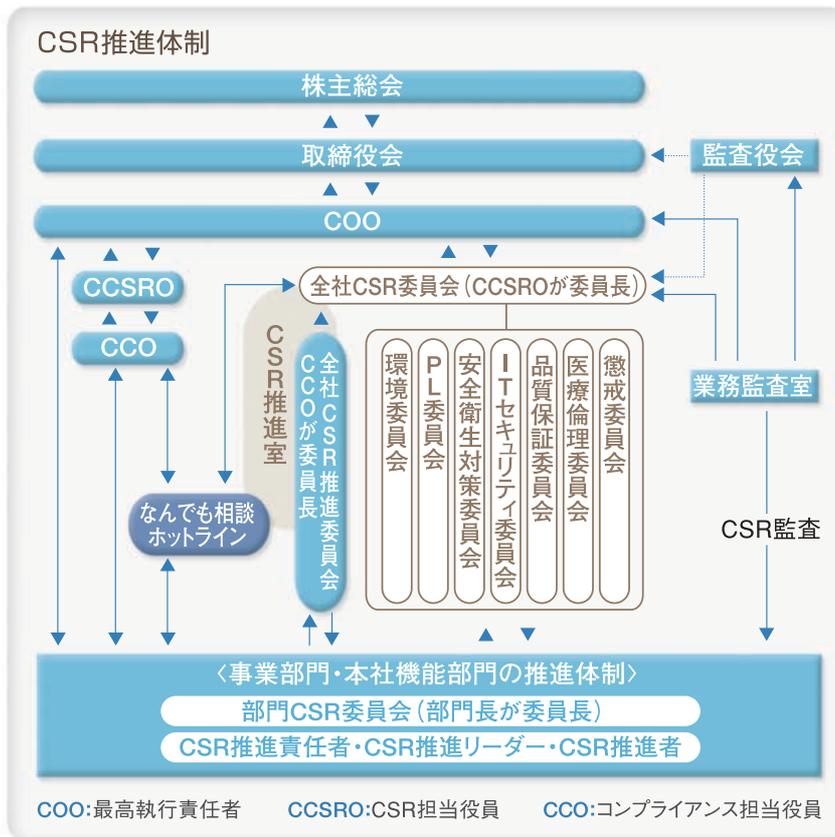
2006年度は事業活動に結びついたCSR推進を目指し、構成員対象アンケートの結果をもとに各部門CSR委員会で重点実施事項を設定し、計画的に活動を展開いたしました。

CSR重点実施項目

- Ⅰ 人権啓発活動を推進する
- Ⅱ 内部統制の強化を図る
- Ⅲ ステークホルダーとコミュニケーションを積極的に図る
- Ⅳ 社会貢献活動を推進する
- Ⅴ 環境負荷低減活動を推進する

コーポレートガバナンス体制と内部統制システムを強化する

- グンゼ行動規範の制定(1998.11/同一部改正 2003.3)
- コンプライアンス担当役員(CCO)の任命(2003.3)
- 企業倫理ヘルプラインの設置(2003.3)
- CCSROの任命、CSR推進室の新設(2004.7)
- 個人情報保護規程の制定(2005.3)
- 執行役員制度の導入と取締役数の削減(2005.6)
- 公益通報者等保護規程の制定(2006.2)
- ITセキュリティ方針・対策標準の制定(2006.4)
- 内部統制システム整備に関する基本方針(2006.5/同一部改正2007.4)
- 財務報告に係る内部統制の文書化方針(2006.5)
- コーポレートガバナンスに関する基本方針(2006.6)
- 社外取締役の招聘(2006.6)
- 取締役任期の短縮 2年→1年(2006.6)
- 当社株式の大量買付行為に対する対処方針の導入(2006.6)
- サプライヤー行動規範の制定(2006.8)
- CSR規程、全社CSR委員会規約の制定(2007.4)
- リスク管理規程の制定(2007.4)
- コンプライアンス規程の制定(2007.4)



CSR優良活動事業場表彰

表彰の基本的な考え方としては、法令順守を核として、環境:省エネ活動・資源循環(廃棄物削減、用水の使用量削減)・大気汚染防止・EMSの運用度、社会:人権配慮・構成員への責任・地域社会貢献活動など、CSRアンケート結果のほか、ストロングポイント(特にすばらしい点)を設定しています。受賞した1位、2位とも事業場独自の「CSR報告書」を発行し、地域社会とのコミュニケーションに努めています。

1位 東北グンゼ株式会社

- 「えひめ^{※2}」の導入により、廃水処理(生物処理)から発生する汚泥量を対前年72%削減。
- 事業場周辺の清掃活動、老人ホームへの持続的な奉仕活動、地元河川流域の水質測定協力を積極的に行っている。
- コージェネシステムによる排熱の有効利用や省エネルギー活動を通じ、エネルギー使用量を対前年5.3%削減。



2位 久世工場

- 昨年度導入開始したえひめAI-2号(配合は独自開発)により汚泥量を対前年17%削減。
- 「チームマイナス6%」に積極的に取り組み、岡山県のクールビズ県民運動の「晴れの国クールビズ賞^{※3}」を受賞。
- 省エネルギー活動を通じ、エネルギー使用量を対前年8.2%削減。



※1 三つの躰

あいさつをする

あいさつは、相手の人格を認め尊重することです。

あいさつは思いやりの心であり、感謝の気持ちをあらわします。

あいさつは、相手と心を通わせ、よりよい人間関係を築く第一歩です。

あたたかい言葉と笑顔は、心をなごませ、喜びを感じさせます。

はきものをそろえる

そろっていることは、美しいと感じる心です。

そろえるとは、小さなこともおろそかにしない誠実さです。

そろえてあるはきものははきやすい。先々のことを考える気くばりです。

乱れを正すことは、気持ちを引き締め、自らを律する心がけです。

そうじをする

そうじをすることは、正しさ、美しさ、すがすがしさを愛することです。

そうじをすることは、働くことの楽しさ、仕事を愛する心を養います。

そうじをすることは、物事のけじめをつけることです。

そうじをすることによって、人にここよさと喜びを与えます。

※2 えひめ

▶ P24

※3 晴れの国

クールビズ賞 ▶ P20

不祥事の未然防止・早期発見・再発防止や、 構成員一人ひとりの倫理観の向上に努めています。

人権啓発活動の推進

基本的な考え方

わたしたちはILO（国際労働機関）が定める基本的な労働基準を順守し、創業の精神である「人間尊重」の気風が構成員一人ひとりに浸透するための人権啓発を行い、人権尊重に基づき行動します。

公正採用選考の宣言

ゲンゼグループは従業員の採用選考にあたって、応募者の基本的人権を尊重し公正な採用選考を実施します。応募者の適性・能力のみを選考基準とし、人種、民族、社会的身分、門地、本籍、出生地等社会的差別の原因となるおそれのある事項および思想・信条、労働組合への加入状況等の個人情報を収集することはいたしません。

◆相談体制

「なんでも相談ホットライン（公益通報等窓口）」「ハラスメント相談窓口」「個人情報相談窓口」をCSR推進室に設置し、基本的人権に配慮した相談体制を敷いています。

また、労使による中央ハラスメント相談窓口会^{※1}を年2回開き、相談内容の把握と防止対策等について協議しています。



中央ハラスメント相談窓口会

◆人権啓発活動

〈人権研修〉

ゲンゼグループは、大阪同和・人権問題企業連絡会等の会員企業として、さまざまな差別の解消に向け、「人権を尊重する企業づくり」に取り組んでいます。社内では、同和問題やセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントの防止等を中心に、階層別研修を実施するとともに、社外の人権啓発の場にも積極的に参加しています。

「部活解放・人権夏期講座」（於：高野山）には毎年受講者を派遣し、2006年度は25名が参加しました。



人権研修会

〈人権週間〉

1948年12月10日、国連総会で「世界人権宣言」が採択され、毎年12月4日から10日までの1週間は「人権週間」です。ゲンゼグループではこの取り組みの一環として構成員とその家族から標語を募集し、優秀作品を表彰しています。また、「人権話材集」を作成し、各部門における朝礼等での活用を促進し、人権意識の向上を図っています。

2006年度 人権標語入選作品

優秀賞

「知らぬふり」心にひそむ 差別の芽（吉田 綾子）

入 選

気づこうよ 自分がされたら嫌なこと（柳井 邦江）

言いません 自分が言われて イヤなこと（脇中 知美）

考えよう 相手の気持ち 顧みよう 自分の行動（金岡 あい）

相手の気持ちを考える 心のゆとりと優しさを（山下 小百合）

見てないフリ 聞いてないフリ そんなあなたは共犯者（真子 強）

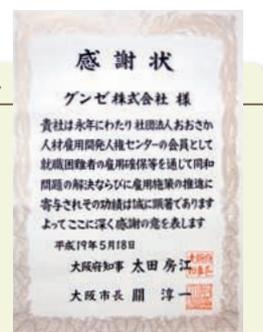
※敬称略

〈外国人研修生・技能実習生の受入状況〉

	受入事業所数	受入人数
外国人研修生	6	32
外国人技能実習生	3	16

TOPICS 雇用の場における取り組み

おおさか人材雇用開発人権センター会員としての活動が評価され、大阪府知事および大阪市長より感謝状をいただきました。



※1 中央ハラスメント相談窓口に寄せられた相談内容の内訳

相談項目	会社窓口		組合窓口
	綾部	大阪	
セクシュアル・ハラスメント	—	15	5
人間関係	1	12	2
パワー・ハラスメント	—	9	3
受動喫煙・マナーなど	3	5	—

相談項目	会社窓口		組合窓口
	綾部	大阪	
メンタルヘルス問題	—	3	—
その他（マナー・公私混同など）	—	22	—
合 計	4件	66件	10件

内部統制の強化

コンプライアンス情報交換会

グンゼではコンプライアンス情報交換会を月1回開催し、コンプライアンス上のリスクに関わる課題を協議しています。内容は、全社CSR委員会等で開示するとともに、各部門CSR研修会等において事例に基づく討議など、再発防止教育を行っています。2006年度は56件のコンプライアンス関連事例を扱いました。



2006年度に協議した主な課題と対応

● 構成員のモラル関連

交通事故関連が6件、法令違反が1件生じています。安全運転の啓発活動や、CSR基礎講座のなかでグループ討議を行い、倫理観を高める啓発活動を行いました。

● 個人情報関連

会社貸与の携帯電話が5台紛失し、個人情報の漏えいにつながりかねない事故がおきています。幸い遠隔ロック機能などを施していたため、2次被害には至っていませんが、携帯電話取扱標準を定めるなど、セキュリティ強化対策を図りました。

● 製品・サービスに対するクレーム関連

ベビー商品からホルマリンが検出されたり、不適切な製品表示や、キャンペーン内容がわかりづらく消費者のみなさまにご迷惑をおかけするなど、製品・サービスに関する重大クレームが9件生じました。

問題解決を迅速に図る体制の整備はもちろん、消費者のみなさまに安心・安全・快適を保証する製品・サービスの提供に向け、品質管理体制をより一層強化いたします。

ITセキュリティ委員会

IT資産を一人ひとりが守るための規程をITセキュリティ委員会で策定し、部門ITセキュリティ委員会で運用しています。



ITセキュリティ委員会

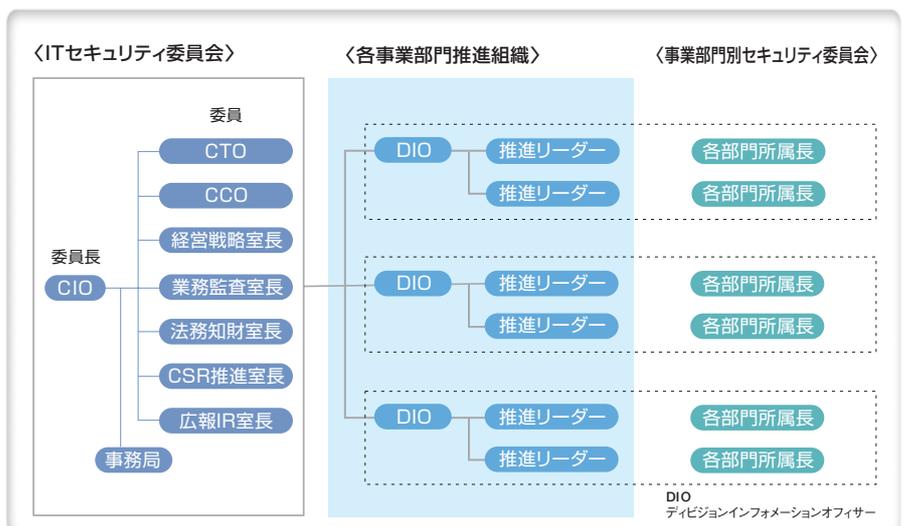


DIO研修会

ITセキュリティに関する規定



ITセキュリティ運用組織^{※2}



※2 ITセキュリティ運用組織

〈ITセキュリティ委員会〉

セキュリティマネジメント体制を整えるための審議・決定機関

- 事務局
委員会で決定した事項を推進する事務局

〈各事業部門推進組織〉

- DIO
各事業部門における推進組織内のITセキュリティの最高責任者
推進組織内のITセキュリティに関する事項は、DIOの責任の下で策定・実施

- 推進リーダー
部門内におけるITセキュリティを推進する

〈事業部門別セキュリティ委員会〉

各事業部門での対応を推進（構成員教育、内部監査、入退出管理等）
DIO、推進リーダー、各部門の所属長にて構成

ステークホルダーとともにCSRを推進し、共存共栄を図ります。

👤 サプライヤーとの公正な関係の構築

サプライヤー行動規範を制定

グンゼグループは1,000社を超えるサプライヤーのみならずと連携をしながら事業活動を展開しています。

サプライヤーのみならずとともにCSRを推進することによって共存共栄を図るべく、2006年8月、グンゼグループ「サプライヤー行動規範」を制定いたしました。

グンゼグループおよびサプライヤー各社へのCSRアンケートの実施

サプライヤー行動規範に基づくCSRアンケートを実施し、自主監査を行いました。

◆対象

	グンゼグループ	サプライヤー	
		依頼	回答(昨年実績)
国内	50箇所	1,074社	844社(638社)
海外	14箇所	169社	150社(181社)

◆調査項目

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| ① 児童労働に関する項目 | ⑤ 健康と作業安全について |
| ② 外国人研修生・実習生および外国人労働者の実態 | ⑥ 団体交渉権について |
| ③ 虐待労働の禁止に関する項目 | ⑦ 環境保全に関する項目 |
| ④ 労働条件に関する項目 | ⑧ 機密情報と知的財産について |
| | ⑨ 贈答・接待に関する項目 |

◆今後の進め方

[サプライヤー各社への理解促進]

グンゼグループ「サプライヤー行動規範」をご理解いただくため各社への要求内容をさらに明確にし、カンパニー・事業部・関係会社ごとに重点管理項目を設定しサプライヤー各社への働きかけを継続実施いたします。

[CSR推進項目ガイドブック作成]

サプライヤー各社と共通の認識でCSRを推進できるよう「CSR推進ガイドブック」を作成いたします。

また各部門はこのガイドブックにより重点管理項目を設定し、サプライヤー各社のCSR推進活動を支援いたします。

[進捗状況の検証]

サプライヤーへの実地監査について内容・方法を検討し、実施いたします。

グンゼグループ「サプライヤー行動規範」^{※1}

グンゼグループは、「グンゼ行動規範」において、世界に通じる公正なルールにのっとり活動することを基本方針としています。サプライヤー各位がこの行動規範の示す、法律の順守、有用かつ安全な製品・サービスの開発・提供、環境への取り組み、人権・人格・個性の尊重に関する基本方針に賛同されることを期待しています。

●法令順守について

- ・社会のルールを順守し、公正かつ自由な競争の中で企業活動を行う
- ・法律を順守し、常に高い倫理観をもち、反社会的行為は行わない
- ・国際ルールを順守し、関係各国の文化、慣習を尊重し、信頼される企業活動を行う

●優良品の提供について

- ・企業活動を通じて社会に有用、かつ安全な製品・サービスを開発、提供する

●環境保全について

- ・企業活動にあたって、環境問題に積極的に取り組み、地球との共存に努める

●人権について

- ・人権・人格・個性を尊重し、人種・国籍・性別等による雇用と職業に関する差別を行わない
- ・児童労働、強制労働、過酷な懲罰等の非人道的な労働行為を行わない
- ・従業員が自らの意思により労働組合を結成する結社の自由、および集団で交渉する権利を、法律で禁止されていない限り、尊重する

●労働について

- ・安全で清潔な作業環境を確保し、従業員の健康に配慮する
- ・労働時間に関する法律及び賃金・福利厚生に関する法律を順守する

●機密情報と知的財産について

- ・取引により知り得た技術、営業、個人等の機密情報の漏洩防止に努めるとともに知的財産を尊重する

●贈答・接待について

- ・不当な利益等の取得を目的とする贈答・接待を行わない

SRI SRI情報

SRI^{※2}ファンドに継続採用

グンゼの株式は、CSR推進活動が評価され、次のSRIファンドの構成銘柄に継続して組み入れられています。

- ・FTSE4 Good インデックス^{※3}シリーズ「英国FTS社」
- ・モーニングスター社会的責任投資株価指数「米国モーニングスター社」

※1 ●この「サプライヤー行動規範」は国連グローバルコンパクト、ILO条約、経団連企業行動憲章を参照している。
●この「サプライヤー行動規範」はグンゼおよびグンゼグループの国内外の関係会社及びサプライヤー各位に適用される。
●グンゼHP URL:<http://www.gunze.co.jp/csr/>

※2 SRI
Socially Responsible Investment
(社会的責任投資)の略。
※3 FTSE4 Good インデックス
英国の金融新聞であるFinancial Times社と
ロンドン証券取引所の合併会社であるFTSE
社が2004年より実施しているSRIファンド。

※4 構成員に対するCSRアンケート
8,058名配布、6,008名分を回収。
(回収率:75%〈昨年73%〉)

■ 構成員のCSR浸透度をあげるために

CSR研修会の実施

2005年のCSRアンケート結果に基づき、各部門CSR委員会において課題を重点実施事項にあげ、対策の一つとして研修を行いました。いずれも、グループ討議を必須とし、多様な価値観のもと双方向コミュニケーションを図りながら倫理観を高め、風通しのよい職場づくりを目指しています。

課題に対する対策事例

- 企業理念浸透度アップ ▶ 創業の理念、三つの旗の啓発など
- CSR浸透度アップ ▶ CSR基礎講座
- 職場風土の改善 ▶ セクシュアル・ハラスメント防止 / パワハラ防止 / コミュニケーションスキルアップ講座
- 情報セキュリティの体制強化
 - ▶ DIO・推進リーダーへの啓発 / 個人情報保護規程など

セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなど通報があった事業場については相談者の依頼に応じ、防止講座を実施しました。また、知的財産権の重要性についての教育にも力を入れています。

◆ 各種研修会の実施状況

〈CSR推進室主催〉

内容	実施場所	対象者
部門CSR責任者会議	大阪	各部門CSR責任者
CSR推進リーダー会議	東京・大阪	各部門CSR推進リーダー
ハラスメント相談窓口スキルアップ講座	大阪	各部門解決・相談窓口
CSR講座 / 危機管理	大阪	経営トップ層
管理職対象CSR講座	大阪	新任管理職
新入社員対象CSR講座	綾部	新入社員
サプライヤー対象CSR講座	大阪	サプライヤー

〈ITセキュリティ委員会主催〉

内容	実施場所	対象者
ITセキュリティ研修会	東京・大阪	DIO・推進リーダー

〈法務・知財室主催〉

内容	実施場所	対象者
知的財産・契約・表示に関する基礎知識	綾部	新入社員
知的財産・契約・表示に関する基礎知識	大阪	管理職
契約に関する基礎知識	大阪・東京	営業担当者
品質表示、商標に関する実務	大阪	企画担当者等
企業経営と知的財産	大阪	経営トップ層
知財権戦略会議（他社権利の侵略防止）	各事業場	部門長・開発担当者等
特許調査手法（他社権利の侵害防止）	各事業場	研究員・開発担当者
表示・品質・知的財産に関する基礎知識	大阪	お客様相談室員

〈業務監査室主催〉

内容	実施場所	対象者
下請法違反防止研修	16箇所	303名（サプライヤー含む）

〈各部門CSR委員会主催〉

内容	受講部門数	対象者
CSR基礎・応用講座	15部門	CSR推進委員 各事業場構成員
セクシュアル・ハラスメント防止講座	20部門	
パワー・ハラスメント防止講座	3部門	
コミュニケーションスキルアップ講座	4部門	
各法令研修	各部門	

◆ コミュニケーションスキルアップ講座

今年度から導入した新しいプログラムです。「こんなこと言ったらどうなるんだろう?」「黙っていた方がよいのではないか・・・」等、職場のコミュニケーションが滞ると、仕事は円滑に進みません。この講座では、ロールプレイを通じて自分の課題に自ら取り組むことにより、職場の風通しをよくすることを目指しています。

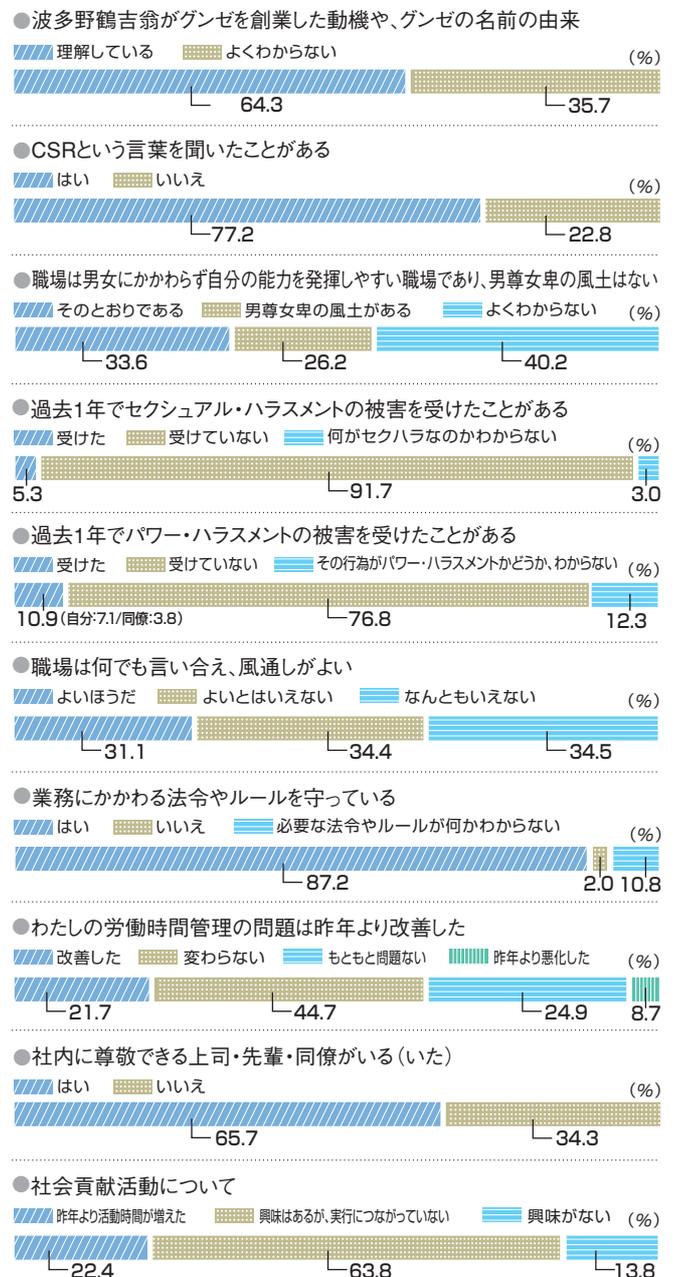
構成員に対するCSRアンケートの実施^{*4}

10月の企業倫理月間に構成員へCSRアンケートを実施しました。結果については全体と自部門の対比表をイントラネットで公開したうえ、各部門でのフィードバックを行っています。課題については、部門CSR委員会の2007年度の重点テーマとして取り上げ、対策を講じます。

部門CSR委員会での重点取り組み項目例

- 企業理念の認知率向上
- 職場風土改善
- ハラスメント防止対策
- 社会貢献活動の推進
- 労働時間管理の徹底

◆ CSRアンケート調査結果（抜粋）



消費者の目線で安心・安全・快適を追求し、信頼と満足の上昇を図ります。

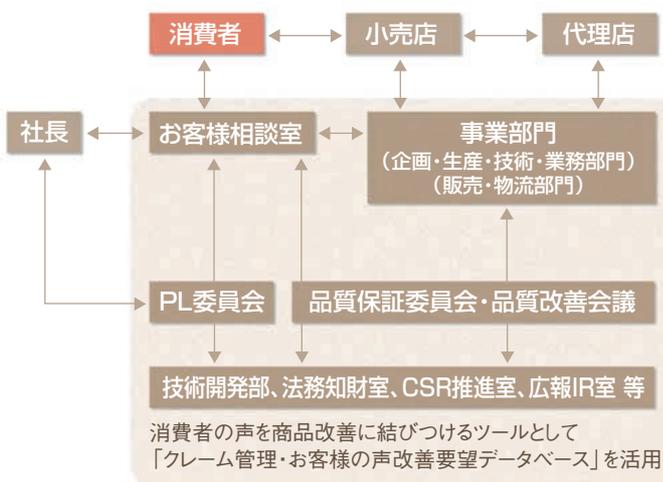
消費者の信頼と満足度を高める取り組み

消費者の視点に立った商品開発

創業以来「品質第一」に徹し、製品やサービスを通じて社会に貢献するという理念の実現に向け、商品の正しい情報を消費者へ提供するとともに、消費者からいただいた情報を社内にフィードバックし、経営戦略や商品企画、商品の改善に活かしています。

2006年度お客様相談室への消費者からの声の74%が売場・商品のお問い合わせでした。22%がクレームやお叱り、4%が商品改善提案でした。

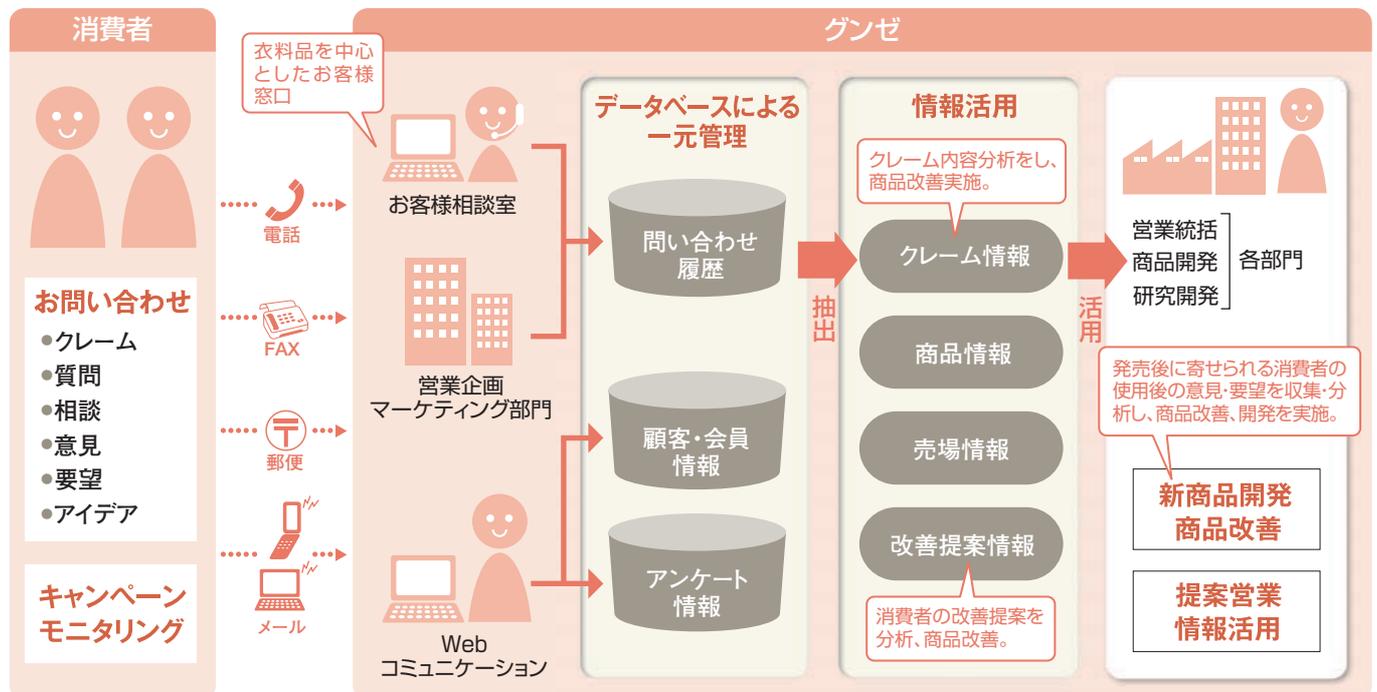
消費者満足度を向上させる仕組みの運用



- ◆消費者指摘事項に対しては
お客様相談室と事業部門消費者窓口による迅速な対応に向けた取り組み
- ◆安全性確保に対しては
新商品は品質保証委員会において市場に出す前に安全性を確認
問題発生後は早期対応と再発防止対策をPL委員会で検討
- ◆品質管理活動に対しては
品質保証委員会と事業部門、工場の品質管理部門が連携し、安全性・品質保証活動を推進
- ◆商品改善に対しては
品質改善会議でお客様相談室の消費者情報を商品改善に反映

●消費者の生の声を事業活動に活かすCRM*概要

* CRM CRMとは、Customer Relationship Management の略。情報システムを活用し、消費者の生の声を長期的・継続的に事業活動に活かすための活動のこと。



グンゼのお客様相談室は、消費者満足度をあげるための最前線部署として、みなさまに安心と信頼をお届けするとともに、たくさんの方にグンゼのファンになっていただくことを目指し、消費者の生の声を事業活動に活かすためのCRM活動に取り組んでいます。



お客様相談室 柳澤尚子

Q1 消費者の方とやりとりをする時に大事にしていることは何ですか？

まずは、わたしたちに電話をかけていただく消費者のみなさまのお声を確実にお届けすることです。消費者へお届けした商品に対するご意見がわたしたちに一番にあがってくるのですから、よいことも悪いこともすばやく関連部署に伝え、迅速な対応につながるよう努めています。

Q2 CRMの取り組みについて教えてください。

消費者のみなさまのニーズに迅速に細やかに対応するためCRMに取り組んでいます。お客様相談室は1988年に設立されて以来、苦情対応を通じ、消費者のみなさまにグンゼのファンになっていただくことを目指してまいりましたが、苦情をいただく件数が年々増加し、お客様からの大事なお電話をとれない状況が続いていました。また、2005年のサーモコントロール加工商品の回収問題に誠実に対応するため、ソフトとハード両面から、システム整備を行い、相談員を増員したところ、2004年には50%台と大変低かった受電率が2005年度は72%、そして2006年11月以降は97%まで上がってまいりました。

Q3 具体的に手ごたえとして感じていることはありますか？

はじめにいただいたご意見の背景にある「グンゼへの期待」を考慮せず、社内基準をたてに一律的に回答してしまうと、お客様のお気持ちをそこねてしまうことがあります。ご意見の背景にある「グンゼへの期待」にきちんと耳を傾けなくてはと思っています。これまで、電話を受ける人、それを関係する社内担当者に報告する人…と役割分担をしていたのですが、相談を受け付けた担当者が相談受付から対応までを一貫して行う体制に切り替えました。一人の作業量は増えましたが、貴重なご意

見を直接聞いた者が最後まで責任を持つことで、消費者の方が本当に何をわたしたちに伝えたかったかをふまえた対応が可能になりました。

実際、消費者の方からお礼のお手紙も増えていて、それがとてもうれしいです。

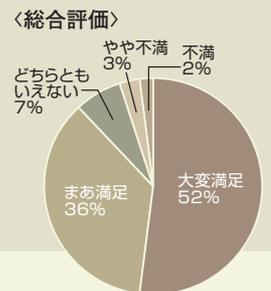
2007年3月に消費者満足度アンケートを実施しましたが、消費者のみなさまからのグンゼに対する信頼と安心への期待の高さをあらためて感じました。このみなさまからの信頼や安心感を、より一層向上させていくことがわたしたちの最優先の使命です。

そのためにはみなさまからの貴重なご意見を分析し、関連部門と情報を共有し、より安心・安全・快適なものづくりにつなげていくことで、「品質第一、技術立社を基盤にした顧客起点の考え方」がグンゼの企業文化としてさらに進化するように改革を続ける部門でありたいです。

顧客満足度調査結果

[300名対象:2007年3月実施]

お客様相談室についての対応全般、スピードなどについて、300名の消費者を対象にアンケートを実施。



多くの方の支援により、お客様の声をきちんと承る仕組みができました。次は、お客様の「こうして欲しいをカタチにする」活動に力を入れて、みなさまからのご期待に応えうるお客様相談窓口を目指します。

クレーム等への対応について

◆「2005年度サーモコントロール加工商品の自主回収」対応のその後の状況について

2006年9月25日 経済産業省へ原因究明の最終報告をし、承認をいただきました。各種分析、調査から、加工薬剤に含まれていた一部の遊離パラフィンと防腐剤が皮膚に浸透した結果、毛穴を塞ぎ、一部の方にアレルギー症状を発症させたことが原因と判明しました。その後、新規薬剤採用時は事前に安全性を確認し、新商品開発時は各段階（設計・見本・本生産）での安全性レビューを強化し、再発防止に努めています。

2007年5月14日より改正施行された消費生活用製品安全法については、当社としての対応ガイドラインを作成し、体制整備を進めています。

◆「適正表示」について

グンゼは従来から正確な表示に努めてまいりましたが、不当表示のおそれのある案件が1件発生しました。

「ちくちくにくい」と表示したウール混の商品に対し「ちくちくした」というクレームが発生し、監督官庁へ報告いたしました。

再発防止として、特殊素材を使用する場合は、潜在的な敏感肌の方等への対応を含め、クレームが予想されるものについては、注意書き等（取り扱い上の注意事項、デメリット表示〈親切表示〉等）の表示を必要条件としました。

「消費者の期待に応えつづけるグンゼ」を目指し、適正表示はもちろん、「安心・安全・快適」な優良品の提供に徹します。

「人は財産」。「企業は人なり」です。
 自発・自律型人財の育成に取り組み、
 変化に柔軟に 대응することができる人財を創出します。
 また、一人ひとりが安全かつ健康に、いきいきと
 働き続けることができる職場を目指します。

■ 活力のある職場環境に向けての取り組み

人財の育成

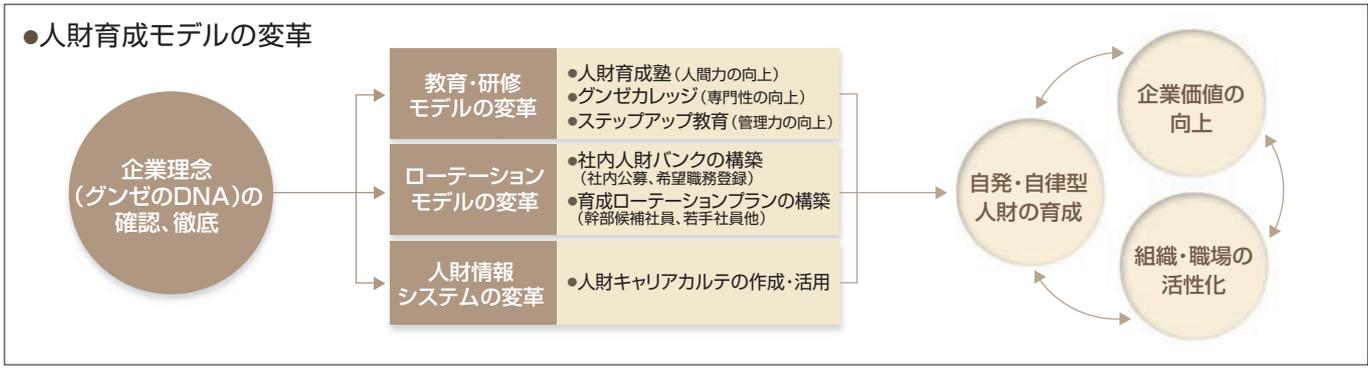
グンゼでは、中期経営計画「3C10計画」の中で「人財育成モデルの変革」に継続して取り組んでいます。「教育・研修モデルの変革」による人間力、専門性、管理力の向上、「ローテーションモデルの変革」による一人ひとりの主体的な選択を重視したローテーションの実現を推進するとともに、これらの推進基盤となる「人財情報システムの変革（構築）」を図り、これら3つの変革を通して自発・自律型人財の育成、企業価値の向上、組織・職場の活性化を目指しています。

「3C10計画」の最終年度である2007年度は、「計画的な育成、技術伝承システムの確立・推進」、「人事処遇制度のレベルアップ」、「優秀人財の確保、定着、活用のしくみの強化」を重点課題としてあげ、『人と組織の活性化』に向けた取り組みをさらに強力に推進しています。

『SMILE（スマイル）運動』の実施

人財育成の取り組みと合わせて、全構成員の意識改革を目指す『SMILE運動』を展開しています。企業は「前進・進化・進歩」がなければ存在できません。従来の意識・仕組みの延長ではなく、勇気ある改革を実現するため、構成員一人ひとりの意識を変える運動として、次の5つのテーマ（視点）に基づいた活動を展開し、「SMILE」あふれるイキイキ・ワクワク職場を目指します。

S peed	キビキビとした動き
M anner	気持ちのよいあいさつ
I dentify	グンゼのよき伝統を受け継ぐ
L ead	自分から一歩前へ出る
E nergy	大きな声で元気よく



TOPICS 育児休暇取得者の声 夫とともに家事・育児、仕事を続けます。

わたしは育児休業制度を二度利用し、現在二人の子を夫と一緒に育てています。子どもが小さいときに、ともに過ごせるこの期間は家族にとってもかけがえのない、貴重な体験となっています。実は、二人目の子どもには入院、治療の必要があり、休業制度は本当にありがたかったです。昨年、子どもの手術のときは、介護のための短時間勤務を1ヶ月利用しました。子どもも病院で一人にな

るのは不安だったことでしょうか、毎日ほんの少しの時間でも、つきそうことができ、本当によかったなと思います。こうした制度が利用できるのも、職場の上司・同僚の理解や配慮があってこそと心から感謝しています。これからも夫とともに家事・育児、そして仕事を続けていきたいと思っています。



エンブラ事業部 江南工場 長嶋朋子

グンゼグループワークライフバランス制度と運用

◆基本的な考え方

男女がともに仕事と家庭の両立が図れる支援制度にしていくことを目指しています。

現在、2005年4月に策定した一般事業主行動計画に基づき、育児・介護支援制度の整備、週1回のノー残業デーの設定、社内報等を活用した両立支援制度の周知・啓発等に取り組んでいます。

◆育児・介護支援制度の取得状況

(人)

	2004年度	2005年度	2006年度
育児休職取得者	43	43	52
育児の短時間勤務利用者	12	9	10
子どもの看護休暇取得者	—	13	8
介護休職取得者	3	2	1
介護の短時間勤務利用者	0	0	1

雇用状況

◆グンゼ(株)単体および連結の従業員数

(人)

	グンゼ(株)単体 在籍者			連結 在籍者 合計
	男性	女性	合計	
2005年3月31日現在	1,671	856	2,527	8,217
2006年3月31日現在	1,610	788	2,398	8,336
2007年3月31日現在	1,572	735	2,307	8,413

◆障がい者雇用状況

全部門での法定雇用率達成を目標に雇用推進を図り、今年度は法定雇用率(1.8%)を上回る1.92%という結果となりました。今後も引き続き、経営指標の重要項目の一つとして位置づけ、全部門での法定雇用率達成を目指します。

〈グンゼグループの障がい者雇用率〉

	%
2005年3月20日現在	1.61%
2006年3月20日現在	1.72%
2007年3月20日現在	1.92%

労働組合とのコミュニケーション

グンゼは労働組合を経営の重要なパートナーとして、定期的な経営協議会、労使研究委員会、従業員満足度調査等を通じて、経営状況や各種課題の共有化を図り、労使一体となって活力あふれる職場づくりに取り組んでいます。

+ 労働安全衛生の取り組み

安全衛生方針の制定

グンゼ安全衛生方針

創業の精神である「人間尊重」の理念のもと、従業員の安全と健康を守ることが、経営の基盤であり、企業としての社会的責任であることを認識し、従業員が安全で健康に働ける快適な職場環境を実現するための活動^{*1}を積極的に推進します。

労働災害・交通災害^{*2}の低減に向けた取り組み(安全活動)

[労働災害の低減に向けた取り組み]

各事業所での労働災害防止の取り組みにより労働災害件数は減少しました。「個々の災害発生原因の究明」、「日常の自主点検活動の強化」、「安全教育の推進」の継続により、「ゼロ災職場」の実現を目指していきます。

[交通災害の低減に向けた取り組み]

自動車通勤者、社用車の運転者を対象とした運転適性診断および地元警察署の協力による交通安全講習を実施しています。こうした積極的な取り組みが評価され、宮津工場が全日本交通安全協会会長賞を受賞いたしました。

健康づくりに向けた取り組み(衛生活動)

[健康管理活動]

- 海外出向者も含めた健康診断の受診徹底とフォロー実施
- 産業医、保健師による健康相談会の実施
- 健康増進活動の実施(体力測定の実施、体育活動の支援)

[メンタルヘルス対策]

- 管理職・人事労務担当者向け研修実施(17回 403名受講)
- 「心の電話相談室」^{*3}(フリーダイヤル、365日24時間体制)の設置
- 産業医による健康相談会
- リーフレットによる啓発の促進



メンタルヘルス研修会

※1 主な活動項目

- 安全衛生諸法令の順守および必要な自主規程の制定
- 計画的、継続的な安全衛生管理活動の推進
- 潜在的な危険の抽出と改善の推進
- メンタルヘルス対策、生活習慣病対策の推進
- 大規模自然災害対策の推進

※2 休業を伴う労働災害・交通災害発生状況

	休業を伴う労働災害	休業を伴う交通災害
2005年3月31日現在	3件	1件
2006年3月31日現在	12件	1件
2007年3月31日現在	8件	0件

※3 「心の電話相談室」における相談実績

	電話相談件数	心の相談件数
2006年3月31日現在	72件	16件
2007年3月31日現在	42件	4件

社会貢献はグンゼの「是」のひとつです。

110th 110周年記念事業

グンゼラブアース倶楽部の発足

110周年記念の社会貢献事業としてグンゼラブアース倶楽部が発足しました。

会員から募った寄付金と会社のマッチングギフトシステムにより会員が選んだ団体への寄付等を通じて社会貢献活動を推進します。



◆グンゼラブアース倶楽部寄付活動

2006年度は次の17団体に支援を行いました。

〈会員による支援要請があり、決定した支援先 3団体〉

分野	支援先団体
植林活動をする団体	NPO法人 ヒマラヤ保全協会 http://www.ihc-japan.org/
子どものための環境教育をする団体	NPO法人 こども環境活動支援協会 http://www.leaf.or.jp/
闘病生活を送る子どもの支援団体	病気と子どもネット・京都 http://www.npo-net.or.jp/kodomonet/

〈会員からのアンケート結果から決定した支援先 14団体〉

分野	支援先団体
地球温暖化防止のための活動支援団体	NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会 http://www.shu.or.jp/Home/HomeTop.html
植林活動をする団体	NPO法人 緑の地球ネットワーク http://homepage3.nifty.com/gentree/ 瀬戸内オリーブ基金
子どものための環境教育	NPO法人 びわこ豊穰の郷 http://www.lake-biwa.net/akanoi/
障がい者の自立支援団体	NPO法人 スペシャルオリンピックス日本 http://www.son.or.jp/
闘病生活を送る子どもの支援団体	NPO法人 日本クリニックラウン協会 http://www.cliniclowns.jp/ (財)がんの子供を守る会 http://www.ccaj-found.or.jp/
補助犬の育成指導のための団体	NPO法人 日本補助犬協会 http://www.hojyoken.com/
その他	NPO法人 国境なき医師団
	NPO法人 国境なき子どもたち http://www.knk.or.jp/japan/knk/knk.htm
	NPO法人 日本白血病研究基金を育てる会 http://www.flrf.gr.jp/
	NPO法人 エヌ・ピー・オー人権センター http://www.geocities.jp/humanrights1998/index.html
	あしなが育英会 http://www.ashinaga.org/index.php 神戸レインボーハウス http://www.ashinaga.org/house_krh.htm NPO法人 国際連合世界食糧計画WFP協会 http://www.jawfp.org/

社会貢献活動の基本的な考え方

- 1 グンゼは創業の精神「人間尊重」「優良品の提供」「共存共栄」のもと、本業を通じた社会貢献を行います。
- 2 構成員が一市民として行う社会貢献活動を支援します。
- 3 グンゼグループの技術・資産・人財を活かした地域社会貢献の推進で、地球・社会との共存共栄を図ります。

◆グンゼラブアース倶楽部独自活動

[BOOKMAGICの取り組み]

自宅などで不要となった古本やCDを持ち寄りNPO法人JENが行うBOOKMAGIC活動に参加しています。

わたしたちの取り組みは、アフガニスタンとパキスタンでの子どものための教育支援事業に役立てられます。



北海道社での取り組み

【使用済み切手 書損じはがき回収】

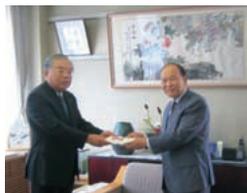
使用済み切手や書損じはがきを回収し、NPO法人GEN (green earth network: 緑の地球ネットワーク)へ送っています。わたしたちの取り組みは植林活動の苗木の資金に充てられます。



福知山アパレル(有)での取り組み

地域との共存共栄を目指して

日頃お世話になっているゆかりの深い地域へ感謝の気持ちをこめ、綾部市・宮津市・守山市との共存共栄を願い、寄付を行いました。



京都府綾部市への寄付

GUNZE FASHION DESIGN AWARD 2006

将来、デザイナーを目指す学生の創作活動を応援するため、スタートいたしました。応募総数1,697点のなか、7作品が受賞しました。



GUNZE FASHION DESIGN AWARD 2006

TOPICS 支援先団体・代表者の声 われわれの今後の活動の大きな励みとなり、大変感謝しています。

今回ご支援いただいた寄付金は、「大阪市中央区といれまっふ※」の制作に使わせていただきました。ご支援のお申し出をいただいたときは、驚きと余りの嬉しさで、すぐに会員に報告し、ともに喜びを分かち合いました。昨日のこのように、今でも鮮明に覚えております。ご支援は、資金的にも大変助かりましたが、それ以上に、これまでの活動に対しての評

価をいただいたということに自信を持つことができ、今後の活動の大きな励みとなりました。本当にありがとうございました。グンゼラブアース倶楽部様の取り組みは、支援を受ける団体はもとより社会全体を元気にさせることにつながりますので、一層のご発展を期待します。今後、どうぞよろしく願いいたします。



特定非営利活動法人 エヌ・ピー・オー人権センター 代表 中尾 美佐枝氏

※ 主に大阪市中央区内の公共・民間施設における「多目的トイレ(車いす用トイレ・オストメイト用トイレ・乳幼児対応トイレ等)」の情報をホームページで提供。
<http://www.toilet-map.com>

海外での活動

ホーチミン市日本商工会主催のチャリティバザーに協力
グンゼベトナムでは2006年で11回目となるホーチミン市日本商工会主催のチャリティバザーに継続して協賛をしています。収益金約3万ドルは、子どもの難病病院や学生の奨学金に寄贈されます。



チャリティバザーでのイベント

教育等支援活動

肌着セミナーの実施

行政や学校の要請に応じ、中学生や教諭、PTAの方を対象に肌着セミナーを実施しています。肌着の基本的な役割から、季節に応じた快適な肌着の着方、服装のTPOや基本的生活習慣などについてお伝えしています。



子どもたちへの肌着セミナー
写真:教育家庭新聞社様より提供

環境教育活動

NPO法人子ども環境活動支援協会と協働し、「企業ができることも達への環境学習支援」事業として、兵庫県西宮市内の学校において環境学習の出前授業を行っています。この事業はNPO法人パートナーシップ・サポートセンターが主催する「第4回パートナーシップ大賞」(2006年11月)のグランプリを受賞しています。



出前授業の様子

京都府・綾部市とグンゼの協働事業「ものづくり支援拠点〈北部産業技術支援センター〉への支援

企業、大学、行政の「産学官」が連携し、地域の中小企業の技術力向上や新商品の開発、新産業の創出を後押しする拠点「北部産業技術支援センター」が2007年6月に開設されます。

グンゼは旧研究所の土地の一部や資材の提供を行っています。



北部産業技術支援センター

第9回「キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)大阪」へ協賛

関西の学生を対象とした新事業の提案コンテスト「第9回キャンパスベンチャーグランプリ(大阪)」に協賛し、起業家を目指す学生達を支援しています。

コンテストを通じて起業家精神を養い新産業の創出と問題解決型の人材育成を支援いたします。

※2007年度「第9回CVG大阪」から毎年継続して協賛します。

協賛活動

スポーツ大会への協賛

グンゼは京都府福知山市が主催する1万人のランナーの祭典「福知山マラソン」に特別協賛しています。



第16回福知山マラソン

チャリティー募金活動

グンゼスポーツ(株)アイビースクエア店(岡山県)では24時間テレビ29「愛は地球を救う」のチャリティー募金活動に協賛し、ご来店いただいたお客様に参加を呼びかけ55,650円を寄付いたしました。

自然災害被災者支援活動

被災地	内容	詳細
インドネシア ジャワ島中部地震 被災者支援 2006年5月	義援金活動	531,317円が構成員から拠出され、1,062,634円を(社)日本経済団体連合会(日本赤十字社経由)へ寄贈
	現地事業場での取り組み	寄付活動 (ジャカルタジャバクラブ経由) 構成員有志による義援金活動 救援物資の提供(水、食料品)
梅雨前線の 影響による土石流 など被災者支援 2006年7月	救援物資の 提供	[長野県岡谷市] ●婦人用 生理用ショーツ 80枚 上物 170枚・下物 190枚 ●紳士用 上物 100枚・下物 150枚 ●子ども用 男児上物・下物 各20枚 女児上物 20枚
		[鹿児島県出水市] ●婦人用 上物・下物 各300枚 ●紳士用 上物・下物 各300枚
		[鹿児島県大口市] ●紳士用 上物・下物 各400枚 ●婦人用 上物・下物 各600枚
石川県能登半島沖 地震被災者支援 2007年3月	救援物資の 提供	[「輪島市ふれあい健康センター」(避難所)あて] ●紳士用 上物・下物 各50枚 ●婦人用 上物・下物 各50枚
		[輪島市門前町のボランティアセンターあて] ●紳士用 上物150枚 下物600枚 ●婦人用 上物420枚 下物540枚 ●靴下 紳士・婦人 各100足
	義援金活動	429,010円が構成員から拠出され、858,020円を石川県共同募金会((社)日本経済団体連合会経由)へ寄贈

その他、グンゼグループ各事業所にて地域と連携した清掃活動や献血活動等を行っています。

環境経営を重要課題として捉え、 海外事業所も含めたグループ全体で環境マネジメント システム (EMS) を構築し、運営しています。

2006年度の実績

- 用水使用量、廃棄物排出量およびPRTR物質使用量削減は目標を達成
- CO₂排出量は、原単位では対前年0.2%、総発生量は1.0%といずれも増加

2007年度の課題と目標

- 2007年度のアクションプラン完了にともない、2010年度に向けたアクションプランを策定し、環境配慮製品の開発と課題であるCO₂の削減、省エネ・省資源対策に積極的に取り組む

TOPICS 「グンゼ環境憲章」とは

グンゼは祖業である蚕糸業を通じて桑の栽培、養蚕、生糸の生産という自然の恵みのなか、地球、社会との共存共栄を目指してきた歴史があります。

グンゼ環境憲章は将来にわたり自然の循環を大切にして、環境の保全に努め、地球・社会の持続的発展に貢献することを表明したものです。

環境への取り組み

基本的な考え方

グンゼグループは、1997年6月に制定した「グンゼ環境憲章」を基本に、環境課題や環境負荷低減の目標を定めたアクションプラン（環境行動計画）を策定し、環境マネジメントシステムの構築、環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいりました。今後も環境会計など環境関連情報の積極的な開示と環境保全効果を高める環境経営に努め、地球との共生を目指します。

グンゼ環境憲章

われわれは、かけがえのない地球を次世代、未来へと受け継いでいく責任を深く自覚し、真に豊かで、持続可能な発展する地球社会を実現するため、一企業市民として環境問題に積極的に取り組み、環境への負荷の軽減に努め、環境を維持、保全していかねばならない。このため、われわれは、環境に対する社会的責務を認識し、環境問題に取り組むべく、環境基本理念と行動指針を定める。

環境基本理念

われわれは、環境に優れた製品の提供を通じて、地球環境と調和し、全てが調和しうる、恵み豊かな地球社会の発展に貢献する。

行動指針

- 1 事業活動の全ての場面において、環境負荷の低減に努める。
- 2 法・条例の遵守はもとより、自主管理基準を設定し、環境管理水準の向上に努める。
- 3 資源、エネルギーの効率的利用を図り、省資源・省エネルギーを推進する。
- 4 廃棄物の発生量の低減に努めるとともに、発生した廃棄物の減量化・回収・再利用化を推進する。
- 5 環境に優れた製品^{*1}の研究開発、及び環境負荷を低減する生産技術、環境技術の開発に努める。
- 6 構成員の環境意識の向上を図り、地域社会の一員として環境保全活動に協力、貢献する。
- 7 海外事業の展開において、環境への配慮と環境技術移転に努める。
- 8 万一、事故等による問題が発生した場合には、迅速に環境負荷の最小化に努める。

※1 環境に優れた製品

環境への影響を軽減する製品・サービスおよびその事業活動全般を言います。

※2 アクションプラン2007

目標達成状況の自己評価

😊 がんばりました 😞 もうひとがんばり 😞 がんばります

アクションプラン2007*2:各年度の目標と2005～2006年度の実績

	基準年度 実績値	2005年 実績	2006年 実績	2006年 目標	目標達成 状況	2007年 目標	2010年 目標	備考	
CO ₂ 排出量削減 (トン)	107,995 (1990年)	108,983	111,456	103,850	☹	102,800	99,355	2005年度以降は自動車や運輸関係を入れて目標を設定。	
廃棄物	総発生量の削減 (トン)	10,234 (2004年)	10,613	10,511	9,729	☹	9,485	9,000	前年よりは削減しましたが目標達成には足りませんでした。
	排出量の削減 (トン)	5,127 (2004年)	4,331	3,812	4,700	☺	4,500	4,000	廃棄物の資源化の促進により目標を達成。
	リサイクル率 (%)	69% (2000年)	96%	98.1%	99%	☹	99%	99%	生産関係のリサイクル率は98.4%とほぼ達成。
用水使用量 (千m ³)	6,021 (2000年)	4,978	4,905	5,000	☺	4,800	4,000	用水の再使用等により目標を達成。	
PRTR対象物質 (トン)	385 (2000年)	151	112	234	☺	225	200	代替品への転換などにより、目標を大幅に達成。	
容器包装リサイクル委託量 (トン)	3,365 (1999年)	2,584	2,698	2,200	☹	2,100	1,650	前年より増加し目標達成には足りませんでした。	

●CO₂排出量は2005年度より運輸関係(社用車、部品・製品輸送関係)を含めて目標設定。 ●2005年度より廃棄物の排出量を新たに目標に設定。

●廃棄物の排出量とは事業所から廃棄物として廃棄物処理業者に委託したものを言う。(リサイクル品を含む、有価物は除く。)

●用水使用量(2006年)削減目標から事務所・サービス部門は除く。

ISO14001 認証取得

グンゼグループ国内での主要事業所での取得は完了しており、2006年度は海外事業所で新たにP.T. Gunze Indonesiaが取得し、海外の取得数は合計13事業所となりました。



ISOを取得したP.T. Gunze Indonesia

晴れの国クールビズ県知事賞受賞(岡山県)

久世工場は地球温暖化防止を図るため、積極的に省エネルギー活動を推進していますが、全員参加で取り組める活動として夏季のクールビズ運動を行っています。(6月1日～9月30日)

活動内容

- ① 「クールビズ運動」宣言を行い、構成員や取引先に取り組みの理解と協力を依頼。
- ② ノーネクタイ、軽装活動として作業性の良いTシャツでの勤務を励行。
- ③ 空調を28℃とし、時間管理もあわせ、省エネ運転を徹底。
- ④ 照明スイッチを個別化することで、必要な時に必要な照明を徹底。
- ⑤ 活動状況や目標実績を一目でわかるよう掲示して全員が結果を共有。
- ⑥ 西日の強い窓際に「立て簾」を置き、冷房効果を促進。

上記の取り組みが評価され、岡山県で実施した地球温暖化防止のための「2006おかやま発クールビズ宣言」活動で、久世工場が「晴れの国クールビズ賞」として岡山県知事賞を受賞しました。(9月19日受賞。県内の158企業・団体の中から選ばれました。)



久世工場の環境推進担当者

グリーン購入(事務用品)

事務用品54品目を選び、グリーン購入を実施しています。2006年度は昨年に引き続きグリーン購入率100%を達成しました。自動車やパソコンなどは集計から除外していますが、購入基準を定めて対応しています。

社内環境監査の実施

2006年度は、昨年に引き続き社内監査員を育成する目的で監査員スキルアップコースを実施しました。

CSR推進室と修了者により、監査チームを編成し、6事業所で社内監査を実施し、不適合事項8件、改善の機会38件を提示し、改善を求めました。

社内環境監査から判明した各事例

●不適合事項の事例

- 行政からの要請、近隣からの環境に関する苦情があった場合、受け付けて文書化することになっているが、できていなかった。
- 重油流出への対応テストが実施され、参加者よりアンケートで不具合点を抽出していたが、その後不具合点にどのように対応したのかわからなかった。

●改善の機会の事例

- 省エネルギーの推進を担当課だけが取り上げているが、設備を使用する現場も巻き込んで取り組んだ方が効果が期待できる。
- 法的小およびその他の要求事項の順守評価を実施するのに、誰が、いつ、どのように評価するのかの手順を明確にしておくことと確実にする。

●ストロングポイントの事例

- 内部監査でタグラベルの廃棄量が多いことを指摘され、その原因を分析し、真の原因を突き止めて減少させたことは、EMSが有効に機能しているよい事例である。
- 多種類ある廃プラスチックを細かく分別回収して資源の循環を推進するとともに、有価処理を積極的に進めて経営に貢献している。
- 工場長が環境保全活動をCSRの重要な取り組みとして強く意識し、外部清掃活動を自主的に行っている。
- 内部監査を実施する前に監査員自ら内部監査チェックシートを作成していて、監査員のレベルアップおよび監査内容の充実につながっている。

大切な地球を次世代に引き継ぐために、事業活動にともなう環境への影響を把握し、環境負荷の低減に努めています。

環境負荷の全体像

グンゼの事業活動と環境負荷

グンゼの事業活動は消費財、生産財の生産活動から、ライフクリエイト、サービス事業など多岐にわたっています。

環境へ影響する主な要因は、生産やサービスの提供のために必要なエネルギー・資源の消費および、それにともなって排出される産業

廃棄物、二酸化炭素、大気汚染物質、化学物質などがあります。今後も、環境負荷の低減に向けた事業活動を推進し、より環境に配慮した商品やサービスの提供に努めます。

〈 〉内は、海外事業所の数値です。

エネルギー(kℓ) (原油換算)	52,397 < 16,746 >
●電 気 (千kWh)	130,919 < 50,442 >
●重 油 (kℓ)	15,028 < 1,605 >
●灯 油 (kℓ)	217 < 1,022 >
●LPGガス(トン)	1,016 < 128 >
●都市ガス(千m³)	2,298 < 114 >
用 水(千m³)	5,424 < 787 > ▶ P25
●河 川 水(千m³)	1,036 < 169 >
●市 水(千m³)	520 < 47 >
●地 下 水(千m³)	3,771 < 212 >
●工業用水(千m³)	97 < 359 >
化学物質(トン) (PRTR対象物質)	112 ▶ P26
主要原材料(トン)	52,497 < 13,860 >
●天然繊維(トン)	6,691 < 4,653 >
●合成繊維(トン)	4,023 < 2,716 >
●樹 脂(トン)	35,106 < 5,717 >
●フィルム(トン)	6,361 < 687 >
●ガ ラ ス(トン)	316 < 87 >
資 材(トン)	4,843 < 2,464 >
●副 資 材(トン)	1,680 < 391 >
●荷材・包材(トン)	3,128 < 2,001 >
●そ の 他(トン)	35 < 72 >

INPUT [インプット]



GUNZEグループ

[研究開発]

- CO₂排出削減
- 省エネ

- VOC削減
- 大気汚染防止

環境会計

環境保全活動報告の一環として、環境省の「環境会計ガイドライン」に基づき環境会計を公表しています。

2006年度の環境保全コストは、投資額が2億800万円、費用額が11億6,100万円となっています。

公害防止は設備投資は一段落しましたが、地球温暖化防止や資源循環のための投資が増加しました。

費用額とは、人件費や設備運転のための費用であり、毎年大きな変動はありません。

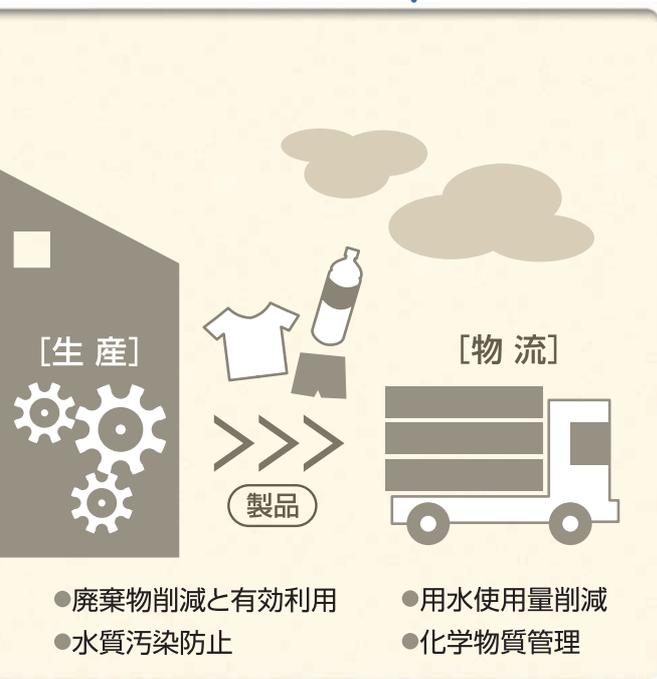
●環境保全コスト(海外含まず)

単位:百万円

項目	2005年度		2006年度	
	投資額	費用額	投資額	費用額
公害防止対策	142	305	48	302
地球環境対策	35	394	65	332
資源循環利用対策	48	251	83	225
上下流コスト	—	18	9	34
管理活動コスト	5	157	1	143
研究開発コスト	—	68	2	65
社会活動コスト	—	11	0	14
その他コスト	—	56	—	46
合計	230	1,260	208	1,161

[アウトプット] OUTPUT

製品(トン)	48,225 < 13,066 >
● 繊維(トン)	10,408 < 6,981 >
● フィルム(トン)	31,647 < 5,414 >
● 印刷物(トン)	5,869 < 600 >
● その他(トン)	301 < 71 >
<small>(生産設備は除外)</small>	



CO₂ 地球温暖化物質 ▶ P23

CO ₂ 排出量(トン)	111,456 < 29,697 >
● 生産からの排出(トン)	103,518 < 29,024 >
● 車輦からの排出 ^{※1} (トン)	7,938 < 673 >

大気汚染物質 ▶ P23・24

● NOx(トン)	91.4 < 7.0 >
● SOx(トン)	18.4 < 14.4 >
● ばいじん(トン)	2.8 < — >

化学物質(PRTR対象物質) ▶ P26

● 廃棄物としての移動(トン)	16.1
● 環境への排出量(トン)	65.2

水系への排出: 14.0 大気への排出: 51.2
土壌への排出: 0

水質汚濁物質 ▶ P26

● 廃水量(千m ³)	2,851 < 310 >
● BOD(トン)	12.1 < 1.4 >
● COD(トン)	39.3 < 5.8 >
● SS(トン)	12.2 < 0.6 >

廃棄物総発生量(トン) ▶ P24

● リサイクル量(トン)	10,311 < 1,498 >
● 埋立・焼却量(トン)	200 < 734 >

一部リサイクル

※1 車輦排出
営業および製品の輸送に使用した燃料からCO₂排出量を算出。

●環境保全にともなう経済効果(海外含む) 単位:百万円

項目	2005年度	2006年度
廃棄物処理の節減効果	187	195
資源削減効果	51	78
省エネルギー効果	80	194
廃水処理実施効果	509	481
コージェネ・熱回収効果	323	168
合計	1,150	1,116

●集計の基本となる事項

[対象範囲]
ゲンゼ株式会社、国内グループ会社28社および海外グループ会社16社

[対象期間]
2006年4月1日～2007年3月31日

[項目分類]
環境省「環境会計ガイドライン」に沿って分類・集計

[経済効果]
廃水処理実施効果とは、廃水処理設備を設置していることにより、下水道費が削減できた費用を計上。
特定の環境対策を行わなかった場合、想定される賠償額などのリスク回避効果(みなし効果)は採用していない。

コージェネシステムの導入をはじめ、独自の技術によりCO₂やVOCの排出削減に取り組むとともに、資源の循環・有効活用に努めています。

2006年度の実績

- ガスコージェネシステムの導入
- 省エネ活動の推進

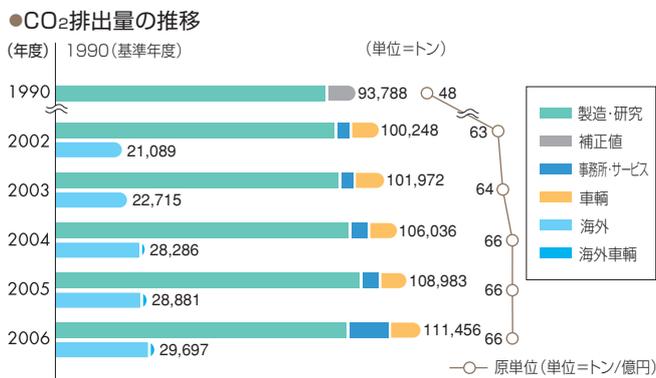
2007年度の課題と目標

- 省エネ活動の推進
- 物流の環境対策の推進

CO₂排出量削減への取り組み

省エネルギー活動の取り組み

地球温暖化防止に向け、省エネ活動に取り組んでいます。1990年を基準にグンゼグループ全体で、エネルギー原単位を毎年1%減少することを目標にしています。今年度は、コージェネレーションシステム^{※1}(以下、「コージェネシステム」)により4,530トンのCO₂削減、省エネ活動(高効率ボイラーの導入等)により原油換算で3,335klの削減を達成しましたが、グンゼスポーツ店の新規オープン(3店)や対象店舗の追加(CO₂排出量:3,668トン)などによりCO₂排出量は2,473トン(対前年2%)増加しました。



江南工場では都市ガスによるコージェネシステムが稼働し、CO₂排出量削減に大きな効果を挙げています。



コージェネシステム [江南工場]

物流における環境対策

製品配送などの、物流環境負荷の軽減対策として、長距離輸送のものは、一部鉄道輸送を行っています。納期、受け入れ先の事情やコンテナの手配など多くの課題がありますが、環境負荷の少ない輸送手段への転換を今後も推進していきます。

バイオ燃料の使用

グンゼでは現在2部門で、てんぷら油をNPOや行政と協働で回収し、再生油の一部を自社のトラックに使用しています。



てんぷら油の回収保管庫 [宮津工場]



燃料給油の様子 [久世工場]

VOC削減への取り組み

光化学スモッグの原因のひとつと考えられる揮発性有機溶剤 (VOC) の削減に努めています。プラスチックカンパニーでは有機溶剤(メタノール)から水への転換を2004年より順次進め、80%以上が完了しました。

江南工場や綾部エンプラ(株)では生産工程から生じる溶剤の排ガスをスクラバー^{※2}で回収しています。回収廃液は再利用されています。



スクラバー [江南工場]

TOPICS コージェネシステム 東北グンゼ(株)コージェネシステムで生まれた「満足湯」

コージェネシステムより発生した排熱は生産工程だけでなく、足湯設備にも利用しています。この足湯設備は、構想から、浴槽のコンクリート打ち、配管、東屋の建築まで全て構成員のボランティアで進めました。東屋の材料も構

成員所有の杉山の間伐材などから調達したもので、「満足湯」と命名されました。「満足湯」は110周年の創業記念日からオープンし、構成員のいやしとコミュニケーションの場となっています。



※1 コージェネレーションシステム

「Co(共同の)エネルギーをGeneration(発生)」させるシステム。発電時に原動機から発生する排熱を回収して、冷暖房や給湯、蒸気などの用途に有効利用することで省エネを可能にし、CO₂排出量の削減を実現。

※2 スクラバー

排ガスを大気に出さないために水などで溶解させて処理する装置。

※3 汚染賦課金

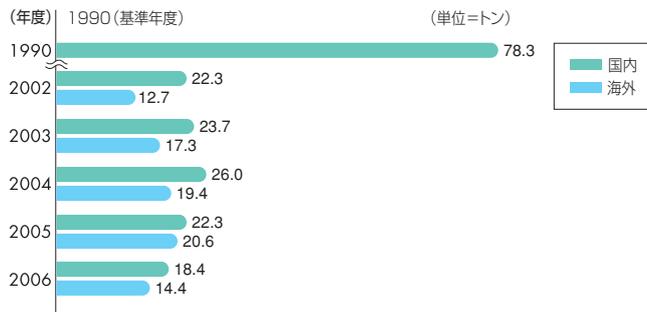
燃料に使用している重油から排出される硫黄酸化物(SOx)の量に比例して支払うもので、公害健康被害者の救済に使用される。

大気汚染防止に向けての取り組み

大気汚染物質の削減

染色、乾燥や暖房に使用しているボイラーの燃料は、重油やガスを使用しており、燃焼時に硫黄酸化物(SOx)、窒素酸化物(NOx)、ばいじんが発生します。SOx排出量削減のため低硫黄(硫黄分0.1%以下)の重油を使用しています。汚染物質は国内外とも前年を下回りました。また、江南工場のコージェネ設備はより環境負荷の少ないガスを燃料として使用するとともに、NOx削減のため脱硝装置を設置しました。

●硫黄酸化物(SOx)排出量の推移



●汚染賦課金^{※3}負担金額(グンゼグループ)

年度	2004年	2005年	2006年
金額(万円)	15,418	14,293	13,717

●2006年度のSOx、NOx測定結果

ボイラー	ばいじん (g/m ³)	NOx (ppm)	SOx (k値)
規制値	0.25~0.3	180~230	8.76~17.0
測定結果	0.004~0.026	34~140	0.02~0.9

※地域により規制値が異なります。

コージェネシステム(ディーゼル)

	ばいじん (g/m ³)	NOx (ppm)	SOx (k値)
規制値	0.1~0.2	180~950	8.760
測定結果	0.004~0.026	14~850	0.13~0.31

※地域により規制値が異なります。

低公害車への切り替え

社用車のリース契約更新時に、低公害車(三つ星以上)へ順次転換しており、2006年度は三つ星以上の車の比率が54%になりました。

●低公害車^{※4}導入実績(2007年3月現在)

	総保有台数	★良	★★優	★★★超	ハイブリッドカー
台数	322	59	9	165	9
比率	100%	18%	3%	51%	3%

※4 低公害認定自動車

☆:NOx、HCを25%以上低減
 ☆☆:NOx、HCを50%低減
 ☆☆☆:NOx、HCを75%以上低減
 ・HC:未燃炭化水素
 ・基準値:2000年排出ガス規制値

※5 廃棄物の定義

グンゼでは、廃棄物とは「自社で不要なもの」と定義。有価物(原材料)として売却しているものも含め、廃棄物として管理している。

※6 環境浄化微生物(えひめ)

愛媛県工業技術開発センターで開発された環境浄化微生物。酵母菌、乳酸菌、納豆菌を主体に、糖蜜などで発酵培養させている。

※7 活性汚泥処理施設

グンゼの廃水処理設備の基本設備であり、生物の力で有機性汚濁物質を浄化している。

※8 汚泥

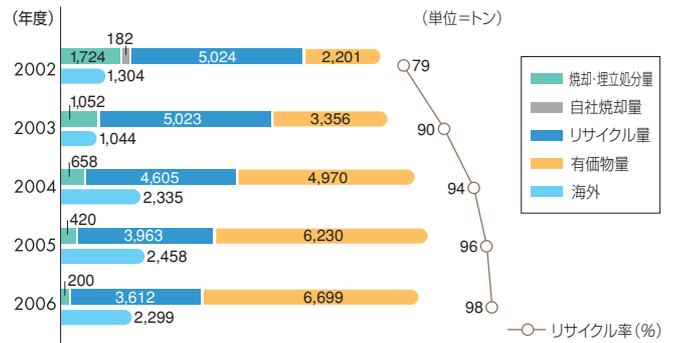
廃水処理(活性汚泥・凝集沈殿等)後に排出される泥状の廃棄物。

廃棄物^{※5}の削減と有効利用

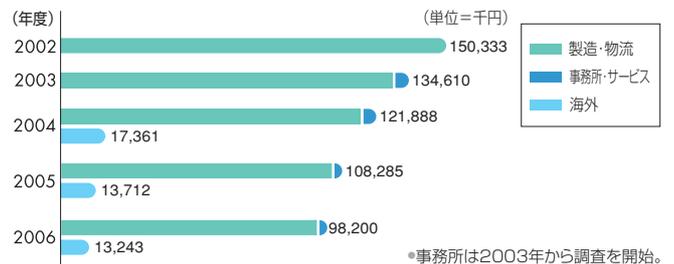
廃棄物削減と有効利用

2006年度の廃棄物の有効利用は全体で98.1%と目標の99%には届きませんでしたが、対前年で2%改善しました。グンゼグリーン(株)から排出される剪定くず等の有効利用が進んだためです。廃棄物の総発生量は対前年微減にとどまりましたが、廃棄物の再資源化により廃棄物の処分費用は大幅に減少しました。

●廃棄物処理内容の推移



●廃棄物処分の費用



汚泥の削減

久世工場に引き続き環境浄化微生物「えひめ」^{※6}を東北グンゼ、九州グンゼの2事業所に導入し、活性汚泥処理^{※7}から発生する汚泥^{※8}の発生量を1/3まで減少しました。特に、この2事業所では、培養の際に必要な糖蜜(缶詰工場から排出される廃棄物)を有効利用しています。他事業所へも順次導入する予定です。太陽熱を利用し脱水後の汚泥の乾燥減量化にも努めています。



大切な水資源を有効に使い、
できるだけ元の状態に近づけて
河川に還しています。
アスベスト対策やPCB管理を含む
化学物質管理の徹底を図っています。

2006年度の実績

- 全ての事業所において放流水質は社内基準をクリア
- 用水使用量は集計対象事業所の増加にともない対前年増加

2007年度の課題と目標

- 自主基準の継続順守

水質汚染防止

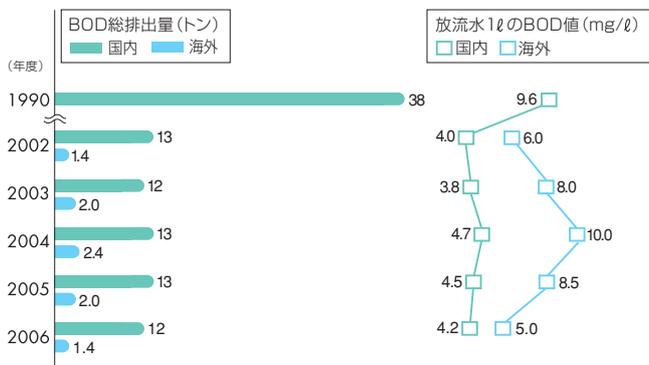
水質汚染防止に向けての取り組み

ゲンゼでは染色用水や空調・冷却用として多くの水を使用しています。特に染色廃水は、独自の処理設備を開発し、法律*1では規制されていない独自基準である着色度**を設定するなど、国内外同一基準で管理し、できるだけ元の状態で河川に還すことに努めています。

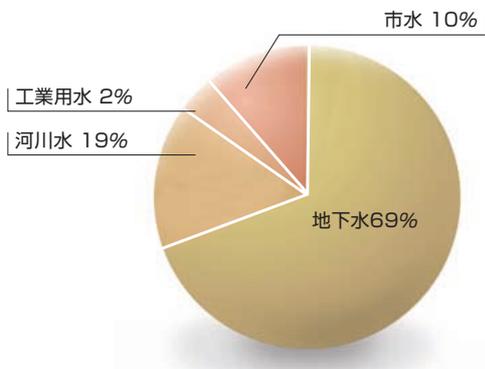
用水の使用量と削減対策

地下水の利用割合は減少しているものの全体の69%を占めています。2006年度はゲンゼスポーツ(株)の新規店などの増加により使用量は増加しました。今後も、冷温水の循環使用などに努め用水の削減を目指します。

●BOD排出量と排水BOD濃度の推移



●2006年度の用水使用の内訳

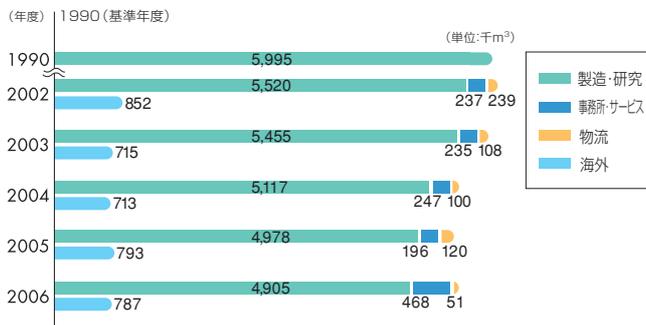


●水質管理基準と2006年度実績

	単位	国の基準	自主基準	実績値	
				国内	海外
BOD	mg/ℓ	40~120	10以下	1~8(42)	4~6(5)
COD	mg/ℓ	40~120	30以下	7~22(138)	18~20(19)
SS	mg/ℓ	40~150	10以下	3~13(7)	2~16(9)
透視度	cm	なし	50以下	57~94(79)	79~80(79)
着色度	倍	なし	30以下	5~25(15)	9~12(10)

()内は平均値

●用水使用量の推移



TOPICS 廃水処理管理 宮津工場の取り組み

宮津工場は近くに天橋立を擁し、その美しい景観を次世代に残すため放流水質を向上することは大きな使命です。当工場はゲンゼの中でも染色廃水の占める割合が高く、脱色処理が適正に行われているかの判断として、着色度(独

自基準)を設け管理しています。管理は個々の設備信頼性改善や異常を迅速に発見し対応するためのシステムの整備、モニターによる遠隔監視体制、警報システム等ハード、ソフトの両面で水質を保障しています。



廃水処理装置【宮津工場】 処理前・後の廃水比較

化学物質管理

PRTR^{*3}管理

PRTR対象物質の総取扱量は代替物質への転換の推進が功を奏し、取扱量は毎年減少しています。2006年度は対前年39トン減少し、対象物質も39物質から36物質に減少しています。今後もより安全な物質への転換を進めていきます。

●PRTR対象物質取扱量と移動量の推移

(単位:kg)

年度	取扱量	製品への使用量	廃棄物としての移動量	環境への排出量	無害化およびリサイクル量
2002	334,859	189,764	33,814	88,127	23,254
2003	285,218	171,962	18,463	75,153	19,640
2004	250,814	122,818	14,879	93,790	19,326
2005	151,116	49,863	17,682	65,977	17,594
2006	112,183	16,683	16,122	65,247	14,131

PCB使用機器の適正管理

PCB使用機器は国の基準に従い管理保管しています。処理に関しては日本環境安全事業(株)と協議し早期完了するよう進めています。1989年以前に製造された変圧器(トランス)などの絶縁油には、微量のPCBが混入している可能性があり、調査を順次行い、適正に対応しています。



PCB機器保管状況[守山工場]

●PCB使用機器の保管状況

機器名	総保管台数	登録台数	登録対象外台数
コンデンサー(高圧)	195台	194台	1台
コンデンサー(低圧)	77台	12台	65台
その他(オイル、ウエス)	3缶	2缶	1缶
蛍光灯の安定器	1,353台	—	1,353台

●微量PCB混入の可能性^{*4}がある機器の調査状況(1989年以前に製造された機器)

	調査対象台数	調査完了台数	PCB混入台数	未調査台数
トランス	405台	266台	67台	139台
コンデンサー	147台	20台	5台	127台
その他	37台	10台	3台	27台
合計	589台	296台	75台	293台

アスベスト対策^{*5}

2002年以降、アスベストが使用されている保温材やパッキンなどの使用を禁止し、ノンアスベスト製品へ順次転換しています。特に、保温材など飛散の可能性の高い箇所は優先的に除去を進めています。

吹き付けアスベストは、年次的に除去を行い、現在残っている箇所は、囲い込みが終了もしくは、現在使用していない建物です。定期的に安全確認のため、環境調査を行っています。



宮津工場保温材 転換前

転換後

土壌・地下水汚染

現時点では土壌・地下水汚染は発見されていません。今後も、用途変更時などの機会に詳細調査を行います。

環境事故と想定訓練

2006年度は環境事故の発生はありませんでした。

各事業所では環境事故防止に向け、定期的に設備の見直しや、不具合などが無い点検しています。

万が一事故が起きたことを想定した訓練も行っています。



東北グンゼ(株)の汚染物質流出事故想定訓練

※1 一般的な水質汚染指標

■BOD(Biochemical Oxygen Demand:生物学的酸素要求量)

微生物が水中の有機物を酸化分解する際に使用する酸素の量。主に河川の汚濁指標として使用。

■COD(Chemical Oxygen Demand:化学的酸素要求量)

水中の汚濁物質が化学的に酸化するときに必要な酸素の量。主に海域や湖沼の汚濁指標として使用。

※3 PRTR

Pollutant Release and Transfer Registerの略。化学物質の排出量等を把握する仕組み。

※4 微量PCB混入の可能性

1989年以前に製造された絶縁油を使用している機器は微量のPCBが混入している可能性があるため、調査が義務づけられている。

■グンゼグループの対応

2004年度より微量PCB混入の可能性のある機器の調査を行っている。2006年3月時点で589台中296台の調査が完了し、75台に微量PCB混入を確認。PCB機器と同様、適正に管理する。未調査機器は計画的に順次調査。

※2 着色度

グンゼ独自の指標。処理水を水道水で希釈して30cmの透視度計に入れ、水道水と比較して同じように見えたときの希釈倍率。数字が小さいほど、色が薄いことを示す。

■SS(Suspended Solids:浮遊物)

放流水1ℓ中に含まれる浮遊固体物質の量(mg/l)。

■透視度

人が目で確認できる透明度(水中での視認距離)で、cmで表示。

※5 アスベスト対策について

グンゼはアスベストの製造は行っていないが、過去、機械設備や蒸気配管等の一部にアスベスト製品を使用。2002年度から新規使用は全面禁止。現在、代替品の転換を進めている。

グンゼは環境や人にやさしいものづくりとサービスで社会貢献を果たします。

アパレル事業

メンズ&キッズカンパニー、 レディス&レッグカンパニー

「ウォームビズ」、「クールビズ」対応インナー※1など
環境配慮型製品の提案

着るだけであったか、ひんやり感がある、肌着やホームウェアを積極的に開発・提供し、「チーム・マイナス6%」活動に参加・協力しています。



レディスインナー

◆クールビズ対応インナー

「COOL MAKE」素材を用いたさらっとしてやわらかいインナー



◆ウォームビズ対応インナー

吸湿発熱原糸「eks」を用いた部分保温インナー



メンズインナー

◆エクステック

グンゼが独自に開発した高機能ファイバーによるクーリング素材「EXTECH-COOL」を使用しています。着ているときの涼しさに加え、運動などでたくさん汗をかいたときも汗をすばやく吸収して放熱します。



◆エコマジック

洗剤を使わなくても水だけで汗や皮脂汚れが落ちる環境にやさしい肌着。洗剤を使えば今まで以上に汚れが落ちやすく、白さも長持ち。不快な汗のニオイもしっかり消臭。高い吸放湿機能が、快適な着用感を演出します。



消費者のみなさまと意見交換を実施

社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会西日本支部のみなさまへエコマジックについてご説明をし、エコマジックの汎用性について意見交換を行いました。



◆グンゼの環境にやさしい製品でステークホルダーと対話を行っています。

[エコプロダクツに参加]

グンゼは環境配慮型製品を多くのみなさまに知っていただくため、エコプロダクツに毎年参加しています。



2006年エコプロダクツ来場者:約15万人

ユニバーサルデザインの視点でつくった肌着
着る人の声から生まれた「着替えらくらく肌着」、
「これ、着やすい!」



障がい者週間での取り組み

内閣府が大阪府、大阪市やNPOなどと共催する障がい者週間事業『みんなで作ろう共生社会「障がい者と社会をつなぐシンポジウム」』において、ユニバーサルデザインの分科会や展示会に参画しました。



よく伸びて「誰でも着やすい肌着」

医療用ストッキング「レッグサイエンス」

グンゼ独自の技術を医療分野に応用し、下腿の血流を促進する医療用ストッキングを2006年1月に販売開始しました。



機能ソリューション事業

プラスチックカンパニー

環境にやさしい非塩ビ製品
複合ナイロンフィルム「HEPTAX (ヘプタックス)」

「HEPTAX (ヘプタックス)」はギリシャ語で「7」の意味を持つ「HEPTA」と、英語で「複雑な」という意味の「COMPLEX」の「X」を組み合わせた造語で、「7つの複合体」という意味です。見た目はとても薄くて、一枚にしか見えませんが、実は、最大で7つの異なる機能をもったプラスチックフィルムの層が重なっています。この技術は世界でグンゼただひとつ。HEPTAXを使って包装をすれば、中身の品質保持はもちろん、非塩ビ製品なので捨てる時も地球環境にやさしいのです。



電子部品事業部

環境にやさしいタッチパネル

当社のタッチパネルは電機業界が定めている厳しい環境負荷物質監査※2の基準に適合しています。



研究開発センター

簡易型自己血糖測定器「簡単測糖」

グンゼのナノテクノロジー（超微細加工技術）によって開発。血液100μl当たり20mg～900mgという広範囲の血糖値を正確に早く、そして容易に測定することができます。



SOZ事業本部

横型スタッカーバンドラー

SOZ事業本部の主力商品「スタッカーバンドラー」は印刷物の紙揃えから結束までの一連の作業を自動で行う省力機です。機械稼働時のトラブル停止率の減少を実現し、従来型に比べ、使用する際の資材や時間のロスを約40%抑制。生産効率の向上とともに、省エネや省スペース、オペレータの作業負担低減といった環境と人へのやさしさを追求し改善と機種拡大を図り、当事業部の売り上げの20%を占めています。



ライフクリエイト事業

グンゼスポーツ(株)

高齢者を元気にする
スポーツプログラムの提供

グンゼスポーツ(株)は、高齢者の元気をつくるのが持続的な社会形成に役立つと考えています。「ちゃんとした運動を、しよう」をテーマに①安全第一②無理せずマイペース③効果を実感できる、シニア層に向けたプログラムを提供しています。



グンゼ開発(株)

省エネ対策に有効なESCO事業※3

グンゼ開発(株)では、グンゼ110年の歴史の中で培われた省エネ技術や経験を活かし、地球温暖化防止に実効性のあるESCO事業をお客様に提供しています。

「第2回優秀ESCO事業表彰」で銅賞を受賞!

グンゼ開発(株)のESCO事業は「第2回優秀ESCO事業表彰」※4で銅賞を受賞いたしました。

グンゼエコカバー

グンゼエコカバーはプラスチック成形工場で使用される射出成形機のシリンダーに取り付け使用する環境にやさしい断熱カバーです。

ヒーター電力を約20～50%削減でき、省エネに貢献します。



グンゼグリーン(株)

アースマイルV(水稲用育苗板)

アースマイルVは、“米作り”の育苗手間や田植え作業時の労力を軽減することに着目し、環境にやさしい天然素材100%にこだわり、開発した水稲用育苗板です。

わたしたちは米作農家のみなさまとともに環境を守り、農作業の軽減に貢献したいと考えています。

●アースマイルVはGUNZE(株)の登録商標です。



エコザクラ(ヒマラヤザクラ)

ヒマラヤザクラは、ヒマラヤ山脈一帯に自生する桜で日本の桜の原種と言われています。大気汚染原因のひとつであるNOx吸収能力や、地球温暖化の原因であるCO2吸収能力も高く、環境浄化木として注目されています。

●エコザクラはGUNZE(株)の登録商標です。



花は一重咲きで個体差により白色からピンク色とさまざま、開花期は11月下旬～12月下旬まで。

※1 ウォームビズ対応インナー 20℃設定のオフィスでも、あたたかく快適かつ働きやすいスタイルで過ごせるよう、素材と機能にこだわった肌着。

クールビズ対応インナー 28℃設定のオフィス環境でも衣服内環境を快適に保てるよう、素材と機能にこだわった肌着。

※2 環境負荷物質監査基準 当社タッチパネルは、RoHS指令で規制されるカドミウム、鉛、水銀、六価クロム、PBDE、PBB他の有害物質を排除し、環境負荷の低減に努めています。

※3 ESCO事業 エナジー・サービス・カンパニー (Energy Service Company) の頭文字を取って「エスコ」と読む。ビルや工場などの建物の省エネ化に必要な「技術」「設備」「人材」「資金」などをすべてを包括的に提供するサービス。

※4 「優良ESCO事業表彰制度」 経済産業省資源エネルギー庁主催日本国内のESCO事業のうち、省エネ性や事業パフォーマンス性に優れた事業を表彰。



社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会

常任理事
西日本支部長

三沢 邦子

昨年に引き続いて本年も「CSR報告書」を見せていただいた。

更に本年は、綾部の工場、記念館、博物苑を訪問し、グンゼについて今までより多くのことを知ることができた。

企業の社会的責任

CSRとは文字通り「企業が社会の一員として社会に対して果たすべき役割と責任」と理解することができよう。何を果たすべき役割と考えるか、何を社会に対する責任と考えるかは企業それぞれに異なろうが、創業の精神、企業理念がその中核を貫いているのはいうまでもない。社会的責任を果たし、永年優良企業であり続けた企業には、例外なくその企業が持ち続けてきた理念・社是があり、その理念は企業の構成員すべてに浸透している。

グンゼ記念館を訪れて、グンゼの「人間尊重」「優良品の提供」「共存共栄」といった創業時からの理念・精神を顕わす数々の展示物を目の当たりにした。従業員一人ひとり、その家族、地域社会を大切にしている会社の理念が、従業員の日々の活動を支え、グンゼの発展につながったと思われる。会社の理念に応じて従業員がお金を出しあって建てた「我等の工場」という石碑からは両者の固い信頼関係がうかがわれ、深い感銘を受けた。

現代社会においては、企業が果たすべき社会的責任の対象は、とてつもなく広がっている。例えばステークホルダーのひとつである消費者は、地域社会の住民だけではなく世界中に散らばっている。そして消費者が企業と接するのはその商品を通してであり、企業と直接に向き合うことはまずない。企業も消費者及び消費者を含めたステークホルダーと対話の機会を持ちたい、ありのままの姿を見せたい、直接理念を訴えたい、と願っていてもそのパイプを作ることは容易ではない。

消費者との交流を

現在、企業と消費者との接点は、ほとんどがお客様相談室である。大方の企業は、お客様相談室を、クレーム処理や相談、商品やサービス改善のヒントをいただく部署としてとらえている。これらも大切な役割ではあるが、お客様相談室を、受け身の部署としてだけでなく、より積極的に広く消費者との交流窓口ととらえたらどうであろうか。消費者が、企業の活動や歴史や理念や方針、たとえば環境についての活動方針・実績などを、直接見たり聞いたりすることができ、自由に意見の交換や話し合いができる「消費者交流室」の役割を担っていただけられないものだろうか。

苦情を伝える消費者はその企業に関心を持っている消費者である。「顧客満足度調査結果」の概要を見せていただいたが、顧客に100%満足してもらえればそれだけでよいのではなく、それをきっかけに企業を知っていただきそこから消費者と企業とのコミュニケーションへとつなぐことができれば、消費者との距離もより近くなる。

例えば、クレームのお客様にはお詫び状と代替品を届けるだけではなく、グンゼ博物苑の招待券や工場見学券などを差し上げて、グンゼを知ってもらうきっかけを作る、といったことから始めてはいかがであろう。

企業のホームページを消費者が何回見たとしても感動や信頼関係は生まれにくい。企業訪問や工場見学の際にいつも感じるのであるが、情報社会の壁を破るのは「百聞は一見にしかず」ではなかろうか。更に望めば、企業は「お客様に満足してもらい、お客様の変化に対応できる会社」であるという受け身の姿勢に止まらず、ぜひお客様＝消費者の「意識を変える」という意気込みと自信を持っていただきたいものである。省資源や環境対策の努力にせよ、消費者が企業から学ぶべきものは多くある。

環境対策について

環境対策で消費者が関心を持つのはまずきれいな水、きれいな空気、きれいな土である。土壌汚染については、現在NPOなどによる第三者評価が始まっている。消費者団体による団体訴訟制度も動きだし、企業に対する地域社会の住民の目も一段と厳しくなると思われる。

報告書を見る限り、環境対策は、省エネ・省資源、環境汚染防止、廃棄物抑制、環境教育支援など多方面にわたりキメ細かな取り組みをしている様子が分かった。社内環境監査の実施は、その結果を改善につなげるなど大きな効果が現れているようである。自主的に目標を設定した、CO₂排出量削減などのアクションプランは、年々〈がんばりました〉マーク😊がひとつずつ増えて、今年は三つのマークが付いた。ただ、こうした達成度には客観的な基準があるのだろうか、気になるところではある。工場で、毎週行う廃水分析中の着色度の項目については、一般基準より厳しい自社の分析基準を達成していると聞いたがより一層客観的で厳しいものであってほしい。

昨年来、製品事故、偽装表示、保険不払い等、「まさか」「またか」の事件が続出し、消費者と企業との溝は一段と深まった。一つひとつの基本をおろそかにしないという姿勢、努力の積み重ねこそが消費者の信頼をえて、企業の発展につながるのではなかろうか。

最後に、身近な生活財を扱うグンゼには、地味な活動ではあるが「人に優しいものづくり」のひとつとして、ユニバーサルデザインの衣服や生活用品などの開発・発売を通しての社会貢献も大いに期待したい。

「グンゼCSR報告書2007」とグンゼグループのCSR推進について、消費者の視点から 社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 三沢西日本支部長よりご意見をいただきました。

いただいたご意見については真摯に受け止め、CSR推進に活かし、今後もステークホルダーのみなさまとの対話に努めてまいります。



[表紙のことば]

地球環境とわたしたちは
決してとぎれない糸でつながっています。
グンゼは創業以来の変わらぬ^{なていと}経系(企業理念)で
地球と社会、企業の共存共栄を目指し、
大事な地球環境を次世代に引き継ぐために、
できることからひとつずつ取り組んでいます。

GUNZE

グンゼ株式会社

大阪本社 〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目8番17号大阪第一生命ビル
お問い合わせ先：CSR推進室
TEL. 06-6348-4817 FAX. 06-6348-4823
URL : <http://www.gunze.co.jp>